

518  
28

漆樹及漆液ニ関スル調査

9 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5

始



382

山林彙報附錄  
大正十二年三月

漆樹及漆液ニ關スル調査

農商務省山林局

178-28

本篇ハ我邦ニ於ケル漆樹栽培及漆液採取ノ概況ヲ記述セルモノニシテ不備ノ  
點ナキニアラスト雖モ最近漆液ノ需要激増シ林地ノ集約的利用ヲ講スルノ急  
務ナルヲ以テ之ヲ印刷ニ附スルコトト爲セリ



大正十二年三月

農商務省山林局



大正  
12. 3. 29  
内交



漆液採取ノ實況 (樹齡約十六年)  
 (在所 巖手二郡一町) 樹ノ産漆量約四貫三百匁  
 大正十一年七月東京漆業同業組合員撮影

樹ノ手ニアラスノ樹子量並漆産ノ需要漸増ニ林産ノ其餘由林用ヲ需スルノ急  
 本廠ハ其減ニ付テハ新樹栽設又舊樹採取ノ増取モ宜敷キルヲ子ノニシテ不備ノ

大正十二年三月  
 東京漆業同業組合

豊前深谷山林園

五大  
 55 EAST  
 交内

# 漆樹及漆液ニ關スル調査

## 目次

第一章 漆樹ノ栽培	
第一節 緒言	一頁
第二節 漆樹ノ植物學上ノ性質	二
漆樹ノ分布	二
漆樹ノ適地	三
第三節 種子	五
種子ノ採取	五
種子ノ精選	五
蠟分ノ除去	五
種子ノ貯藏及其價額	五
第四節 苗木仕立法	七
一、播種ニ依ル仕立法	七
種子ノ浸水	七
苗圃	七
苗木ノ撫育	七
二、分根ニ依ル苗木仕立法	七

三、植栽ノ時期及其方法……………八

四、漆樹植栽地ニ於ケル農作物ノ栽培(混農林業)……………九

五、漆樹ノ害蟲……………一〇

第五節 漆樹ノ萌芽更新法……………一一

(附 錄)

一、各府縣別漆樹栽培者(明治四十四年(大正六年)現在數比較)……………一二

二、國有林内漆樹栽培本數表(自明治四十三年度累計)……………一五

第二章 漆液採取ノ現況並種實及材ノ利用

第一節 漆液採取ノ現況……………一五

一、漆液採取人夫減少ノ模様……………一六

二、漆液採取人夫(明治四十四年(大正六年)現在數比較)……………一八

三、本邦ニ於ケル漆液採取季節及期間……………二〇

四、一人一期間ノ採取木數……………二一

五、漆液採取ノ順序及方法……………二二

六、産漆量ノ多寡……………二七

(一)樹性——(二)土質——(三)採取時季ノ天候——(四)樹齡及徑級——

(五)採取方ノ巧拙——(六)採取季節トノ關係——(七)採取ノ功程——(八)漆液ノ品質——(九)養生搔ト殺搔——(一〇)生漆採取用器具……………二七

第二節 漆實及漆材ノ利用……………四〇

第三節 漆液精製法ノ概要……………四二

(附 錄)漆まけノ豫防手當法……………四三

第四節 最近ニ於ケル漆液ノ價額騰落ト漆液輸入數量……………四四

第五節 漆樹栽培ノ收支……………四五

福島縣耶麻郡地方ニ於ケル實例……………四五

總 括……………四七

(參 考)

一、朝鮮ニ於ケル漆樹分布ノ概況……………四八

二、支那ニ於ケル漆液生産ノ概況……………四九

三、舊津輕藩漆樹仕立獎勵ノ概要……………五七

# 漆樹及漆液ニ關スル調査

## 第一章 漆樹栽培法

### 第一節 緒言

全國ニ於ケル漆樹ノ本數ハ大正六年各府縣ノ調査ニ依レハ約二百五十八萬本ニシテ最近一箇年ノ採液量(生漆)ハ二萬七千貫ヲ出テサルヘシ然ルニ實際漆液ノ需要額ハ年々増加シテ最近約二十五萬貫トナリ其大半ハ之ヲ支那漆(少許ノ佛領印度産及朝鮮産ヲ含ム)ノ輸入ニ仰キ其年額實ニ二十二萬餘貫ノ多キニ達セリ而シテ本邦ニ於ケル漆樹栽培ノ狀況ヲ觀ルニ之カ増殖ヲ圖ルモノ少キノミナラス一旦採液シタル上ハ直チニ之ヲ伐採シテ顧ミサルモノ極メテ多シ古來本邦品ハ特殊ノ美術的漆器原料トシテ必要ナルヲ以テ之カ増殖ヲ圖ルニアラスンハ夙ニ世界ニ名聲ヲ博セル我カ漆器工業界ニ一大打擊ヲ與フ

ヘシ是ヲ以テ政府ハ曩ニ明治四十一年ヨリ大正二年マテ國庫ノ補助ニ依リ該苗木ノ下附ヲ行ヘリ其本數二十一萬七百四本ニ達セリ尙ホ大正八年度ヨリ其養成ニ對シ相當補助金ヲ交附シツツアルノミナラス市町村ニ於テ之カ殖林ヲナス場合ニハ之ヲ補助シ又産業組合或ハ森林組合ノ事業ニ對シテハ低利資金貸付ノ途アルモ依然トシテ之カ増殖ヲ講スルモノ極メテ尠キハ甚ク遺憾ニ堪ヘサル所ナリ又朝鮮ニ於ケル此樹ノ分布區域ハ比較的廣汎ナルモ萌芽後三、四年ニシテ其根元ヨリ伐採シ焙リテ採液スルヲ

以テ大樹ノ見ルヘキモノナク又其産漆量ハ著シク増進ヲ見ス由來此樹ハ農作物ノ栽培ニ適セサル河  
畔、畦畔、道路ノ堤腹若クハ農作ノ附屬地ト見做スヘキ箇所及山林内空地等凡テ肥沃ノ地ニハ極メテ  
良好ノ生育ヲナシ殊ニ地味良好ナル山畑ニ間作スルハ比較的有利ト認ムルカ故ニ宜シク適地ヲ選定シ  
テ之カ栽培増殖ニ努ムヘキナリ

### ○第二節 漆樹ノ植物學上ノ性質

漆樹ニ二種アリ日本、朝鮮、支那ノ各地ニ分布スル *Rhus vernicifera*, D.C. ハ樹高數丈ニ達スル落葉喬  
木ナリ葉ハ羽狀複葉ニシテ七乃至十一箇ノ小葉アリ小葉ハ橢圓形或ハ卵狀橢圓形全縁ニシテ短キ銳尖  
頭ヲナシ裏面ニ毛茸ヲ有シ大サ二、三寸許支脈ハ斜ニ出テテ略ホ平行ス秋季紅葉シテ美觀ヲ呈ス雌雄  
異株ナリ核果ハ不正形ヲナシ壓扁セラレテ平滑ナリ邊材ハ甚タ狭クシテ光澤アル白色ヲナシ心材ハ美  
麗ナル帶綠黃色ナリ材ハ輕軟ニシテ割リ易シ緬甸漆ハ *Melastoma Distata* ニシテ緬甸、暹羅等ニ自  
生ス是亦落葉喬木ニシテ葉ハ單葉倒卵形又ハ橢圓鈍頭ニシテ軟ク葉ノ表裏ニ毛茸アリ葉ノ長サ六吋乃  
至十四吋幅四吋乃至六吋其基部楔形ヲナシ葉柄ハ平クシテ翼アリ長サ一、二乃至一吋ナリ核果ハ櫻實  
大ニシテ其色赤ク白粉ヲ以テ蔽ハル其直徑二分ノ一吋ナリ

### 漆樹ノ分布

本邦ニテハ漆樹ハ人工ニ依リ植栽セラレタルモノニシテ南ハ九州ヨリ北ハ北海道札幌以南ノ地ニ植栽  
セララルヲ以テ其生育區域ハ頗ル廣シ植物帶上溫帶ニ屬スルモノノ如シ支那ニテハ滿洲盛景省以南ノ  
地ニ散在シ最モ多キハ陝西省ノ漢中、同州即チ黃河ノ上流渭水ノ兩岸地方、貴州者ノ大定畢節、桐仁、  
四川省ノ東北部、湖北省ノ荊州、襄陽、丁字關、宜昌、浙江省ノ全州、嚴州地方等ニシテ就中陝西、  
湖北兩省ヨリ最良ノ漆ヲ產出ス

朝鮮ニテハ咸鏡北道ヲ除ケハ殆ント全國ニ分布シ江原道原州郡、平安北道泰川地方、忠清南道公州地  
方、忠清北道沃川郡、咸鏡南道新興郡及慶尙南道居昌郡特ニ漆產地トシテ知ラル

### 漆樹ノ適地

漆樹ノ能ク生育スル所ハ朝夕日光ノ照射ヲ受ケ空氣ノ流通良ク水ノ停滯セサル所トス故ニ陰地及濕地  
ハ良シカラス最良ノ地質ハ肥沃ナル小石混リノ壤土ニシテ粘氣強ク土質硬固ナル埴土及表土ノ淺キ所  
ハ生長概シテ遲緩ナリ從ツテ是等ノ地ニ植栽セルモノハ利益ヲ見ルコト極メテ少ク或ハ早ク枯死スル  
ノ憂ナシトセス有機質ヲ多量ニ含有シ乾濕其宜シキヲ得テ樹根ノ生理作用ヲ妨ケサル所ヲ選ミ之ヲ植  
栽スヘシ唯此樹ノ特性ハ樹々相集リテ林狀ヲナスヲ好マス相離レテ單獨ノ生長ヲ遂ケントスルモノノ  
如シ是レ畑地ノ畦畔、河川ノ堤塘、山麓或ハ崖地、河川ノ寄洲等ニ能ク生育スル所以ナリ

尙ホ此樹ノ適地ニ就キ古來實驗家ノ意見ハ大ニ斯業ノ參考ニ資スル所アルヲ以テ左ニ其要領ヲ摘録ス

- 一、大豆、其他豆類ノ良ク生育スル所ハ必ラス漆樹ニ適スルカ故ニ強度ノ酸性土壤ニハ此樹ノ生育極メテ不良ナルカ如シ
  - 二、地勢ハ巖手縣ノ如キ氣候寒冷ナル所ニアリテハ西向ヲ可トス即チ日照時ノ長キヲ好ム巖手縣ニ戸郡金田一村宇湯田地方ノ漆ハ品質良好ナルカ同地方ニテハ西向ニシテ石灰岩地方ナリト山形縣念珠ヶ關ニテハ西風ノ強ク當ル所ハ可良ナラスト
  - 三、燒畑ニ植付クルヲ可ナリトスルノ説アルモ開墾シテ直チニ植付クルヲ良トス
  - 四、原野地ハ概シテ酸性土壤ノ區域多キカ故ニ栽培上特ニ此點ニ注意ヲ要ス
  - 五、林地ニ於テハ植栽前耕耘ヲナスニアラサレハ充分ナル生長ヲ期シ難キコトアリ凡テ地味衰退ノ徵アルトキハ肥料ヲ施スヲ良トス
- 又、櫛等ノ植栽セル間ニ混植ヲ行フモ敢テ障害ナシ故ニ是等ノ土地ヲモ漆樹ノ栽培ニ利用スルハ刻下ノ急務トスル所タリ凡テ山岳、溪谷等ニ在リテハ其土地ノ狀況ヲ觀察シテ其適否ヲ識別スルノ要アリ例ヘハ小丘ニ圍繞セラレタル所或ハ強風ノ常ニ襲來セサル土地ハ最モ良シク普通燒畑及切替畑ヲ開キタル所ニ在リテハ可成中腹以下ノ濕氣多キ所ヲ良トス又東北ニ面シタル所ハ西南ニ傾斜シタル所ヨリモ地味肥沃ノ地多キヲ以テ概シテ成長迅速ナリ平坦ノ地ニアリテハ陰陽ノ區別ヲ選ムコトナク唯土壤ノ適否ニ依リ植栽スルヲ要ス

### 第三節 種子

- 一、種子ノ採取——十月下旬ヨリ十一月上旬ノ交ニ該樹ノ落葉シテ種實ノ外皮淡黄色トナルヲ待チ之ヲ採取スヘシ時期少シク遅クルトモ甚シキ支障アルヲ見ス母樹ハ液質良好ニシテ且出液多キモノヲ良トス其漆液ノ良否及出液ノ多少ハ前回搔取リノ時ノ成績又ハ當年搔キ取リタル木ノ隣接木ト同一ノ條件ヲ以テ之ヲ定ムルモノトス而シテ採取方法ハ地方ニ依リ多少ノ相異アリ
- (福島縣耶麻郡地方) 俗ニ木ノ實取鎌ト稱スル及渡リ三寸程ノ彎曲セル鎌ニ長サ二間位ノ柄ヲ附シ或ハ一尺位ノ柄ヲ附シテ適宜ノ竹竿ニ結ヒ付ケ使用ス即チ結實セル房ノ根元ヲ上方ニ突キテ地上ニ落トシテ拾ヒ集ムルモノトス
- 二、種子ノ精選——拾ヒ集メタル房ヲ幅一尺長サ三尺位ノ板ニ中央ヲ高ク彎曲セシメテ鐵線ヲ張り兩端ヲ更ニ鐵線ニテ固定シタル板ニ擦リ付ケテ粒トナシ更ニ粒間ニ介在スル塵芥ヲ除去ス塵芥ヲ除キタル種子ハ更ニ之ヲ木臼ニ入レ徐々ニ舂キテ外皮ヲ剝離セシメ之ヲ萬石及唐箕ニ懸ケテ外皮及塵芥、枇等ヲ除キ取リ精選ヲ終ルモノトス大正九年十一月中福島縣下喜多方小林區署ニ於テ同縣耶麻郡北山村字蠶養場園有林内漆樹(母樹)ヨリ採取シタル實驗ニ依レハ漆種子ノ重量左ノ如シ(但シ結實ノ豊凶ニ依リ多少ノ差違アルモノトス)房ノ儘秤量シタルモノ一貫目ヨリ外殼附着ノ種子六升三合、外殼附着

ノ儘ノ一升ノ重量百四十匁、外殻ヲ除去シタルモノ一升ノ重量二百八十六匁、舊會津藩ニ於テ種子ノ標準トシテ定メタルモノ次ノ如シ房木實一貫目ヲ粒トナシ六升五合、粒實一升百二十五匁、同粒數六千九百五十四、蠟分六合、核子四合ノモノトス

三、種子ノ蠟分除去——精選シタル種子ハ精選後直チニ或ハ播種ノ間際ニ於テ之ヲ桶ニ入レ木灰、苛性曹達、石鹼液又ハ皂莢汁ノ何レカヲ加ヘ温湯ヲ注キ能ク洗滌シテ蠟分ヲ除去セサルヘカラス然ラサレハ播種後濕氣ヲ吸收シ難クシテ發芽不揃トナリ一年或ハ二年ヲ經テ發芽スルモノアルヲ見ル洗滌ニ際シ浮キタル糞ヲ除クモノトス

四、種子ノ貯藏及其價額——漆種子ハ乾燥ヲ厭フヲ以テ袋又ハ吹ニ入レ其儘土藏ニ貯フルコトアルモ砂ニ混シテ貯フルヲ最モ可トスルカ如シ古代ニハ多クノ地方ニテハ之ヲ竹箆ニ入レテ尿水中ニ浸シ置キ翌春之ヲ引揚ケ洗ヒ去リタル上木灰ヲ混シテ播種セルモノナリ是レ種子ノ濕潤ヲ保ツト蠟分ノ除去トヲ兼ネタルモノニシテ自然ノ理ニ適ヘルモノナリ種子ノ價額ハ年ニ依リテ同シカラサルコト勿論ナルモ大正十年一月福島縣下喜多方小林區署ニ於テ附近ノ生産地ヨリ購入シタルモノハ外皮ヲ除キ精選シ蠟分ヲ除去セサルモノ（耶麻郡駒形村常世國有苗圃納メ）一升ノ價額十五錢ニシテ之ヲ種子商人ノ手ヲ經テ購入スルトキハ蠟分ヲ除去セルモノニシテ一升約五十錢内外ナリ

#### 第四節 苗木仕立法

##### 一、播種ニ依ル苗木仕立法

一、種子ノ浸水——蠟分ヲ除キタル種子ハ播種前一週間乃至十日間位水或ハ微温湯ニ浸スヲ良トス

二、苗圃——苗圃ハ地味肥沃ニシテ稍々濕氣アル日當リ良キ砂質土壤ヲ可トス秋季耕鋤シテ施肥ヲナシ置キ翌春再ヒ之ヲ耕耘シテ幅二尺五寸高サ六寸位ニ仕上クル様ニ床ヲ作り人糞尿ヲ施シ土ヲ覆ヒ輕ク踏ミ固メ八十八夜前後ニ播種ス播種量ハ床地一坪ニ付三合乃至五、六合ヲ普通トスルモ三、四合ヲ適度トス細土ヲ撒リ蒔キ五分位ノ厚サニ篩ヒ懸ケ一本竝ヘニ藁ヲ以テ之ヲ覆ヒ乾燥セサル様時々稀薄ナル米泔汁ヲ灌クコト凡ソ三週間ニシテ發芽ヲ見ルニ至ル

三、苗木ノ撫育——發芽セルヲ見テ藁ヲ除キ日覆ヒヲナシ時々雜草ヲ除キ稀薄ナル人糞尿ヲ施シ秋季彼岸過キニ至リテ日覆ヲ除クモノトス霜除ケハ普通之ヲ行ハサルカ如シ翌春ニ至リ發芽前ニ列間六寸、苗間五寸位ニ床替ヲ行ヒ除草施肥ヲナストキハ二年目ノ秋又ハ三年ノ春山行苗トナスコトヲ得ヘシ（因ニ云フ雄木ハ雌木ニ比シ生育頗ル速カニシテ鬚根少シ葉ハ雄木ハ細長ニシテ雌木ハ厚ク圓形ナリトノ説ヲナスモノナリト雖モ直チニ信シ難シ）

##### 二、分根ニ依ル苗木仕立法

漆苗木ハ普通實播法ニ依リ養成セラルルモ亦其根ヲ利用シテ苗木ヲ作ルコトヲ得ヘシ分根ニ依リタル苗木ハ親木ノ性質ヲ變スルコトナク氣候、地質等ニ於テ甚シキ差異ナキ以上ハ其漆液ノ品質ニ於テモ亦同一ナリトノ故ヲ以テ當業者中ニハ分根苗ノミヲ用ユルモノアリ又雌木、雄木思ヒノ儘ノ苗木ヲ得ヘク且生長比較的速カナリト稱シテ之ヲ可トスルモノアリ

根分苗ヲ作ランニハ春季彼岸前或ハ秋季彼岸後ニ周圍九分乃至一寸六分位ノ根ヲ長サ一寸位ニ截リ列間六寸苗間五寸位ヲ距テテ稍々斜ニ地中ニ伏セ細土ヲ二寸位覆ヒテ輕ルク踏ミ固メ時々除草ヲナシ少量ノ肥料ヲ與フルトキハ春伏セモノハ其年ノ秋、秋伏セモノハ翌年ノ秋ニ至リ長サ二尺位ノ山行苗ヲ得ヘシ成長遅レタルモノハ床替ヲナスノ要アルヘシ

### 三、植栽ノ時季及其方法

多ク各地方ニ行ハルル方法ヲ掲クレハ秋季落葉後苗木ヲ床地ヨリ掘リ取り適當ニ根ヲ切り取り之ヲ五十本一束トナシテ地中ニ深ク埋メテ假植シ置キ翌春之ヲ山地ニ移植スルナリ其方法ハ五六寸ノ穴ヲ掘ル植付本數ハ地方ニ依リ一様ナラサルモ山形縣念珠ヶ關ニテハ一段歩六、七十本乃至百本、會津地方ニテハ一段歩二百五十本乃至三百本ノ割合ニ植栽ス凡テ漆苗木ハ生長スルニ從ヒ上根ノ張ル傾向アルヲ以テ深植ニ過クルトキハ生長不良ナリ一人一日ノ植栽本數ハ二五〇本乃至三〇〇本ナリ植栽後ハ年二回下草ノ刈拂ヒト一回ノ耕耘ヲナストキハ生長良好ナリ尙ホ植栽後多少ノ肥料ヲ施ストキハ生育極メ

テ良好ナリ此樹ニ對シテハ古來農作物ト同シタ丁寧ナル培養ヲ施ス所尠カラズ會津地方ニテハ山林ニ簡單ナル開墾ヲナシ四、五年間大小豆、野菜類ヲ栽培スルヲ最モ普通トス即チ是等ノ間作ハ植栽後ノ手入費ヲ省キ土壤ノ理學的性質ヲ佳良ナラシムルノ利アリ此地方ニテ多ク行フ方法ハ前年ノ秋季ニ於テ廣サ方二尺乃至三尺深サ二尺位ヲ掘リ起シ土壤ヲ細碎シテ厩肥等ヲ施シ薄ク土ヲ覆ヒ置キ翌春植付クルトキハ生長良好ナリ往時ハ一駄木又ハ二駄木ト稱シ一段歩ニ厩肥ヲ一駄或ハ二駄施シタルモノナリト云フ又地方ノ實験家ノ談ニ依レハ漆樹ヲ栽培シテ收量ヲ擧ケント欲セハ充分ニ肥料ヲ施スヲ要スト肥料ハ其種額ノ何タルヲ選ハサルモ堆肥、厩肥、人糞尿、油粕、綠肥又ハ鷄糞ヲ最モ適當トス然レトモ現今本邦各地ニ於テ施肥ヲナスモノ極メテ稀レナリ植付ニ對スル注意ハ一般苗木ニ同シ而シテ短期間ニ伐採更新スル場合ニハ比較的密植ヲ利トスルモノノ如シ

### 四、漆樹植栽地ニ於ケル農作物ノ栽培(混農林業)

古來ノ實驗ニ徴スルニ漆樹ヲ植栽セル苗間ヲ利用シ作付ヲナスコトハ比較的有利ナリ其間作トシテ適當セルモノハ蒟蒻、里芋、甘藷、馬鈴薯、輸出百合、大豆、小豆、粟、陸稻、燕麥等トス又山畑ノ周圍ニハ三椏、楮等ヲ植栽シ土砂留トナシ或ハ柵ノ代用トナスモ亦有益ナルヘシ是等混農林業ハ收支ノ關係ニ於テ地拵及除草ニ要スル費用ヲ省略シ得ルノミナラス漆樹ノ最モ好ム土壤ノ透水性ヲ増加シ地中ニ空氣ノ侵入ヲ容易ナラシメ從ツテ地中ノ養分ヲ分解スルコト速カナルカ故ニ該樹ノ生育ヲ著シク

促進スルノ利アルモノトス蓋シ在來ノ切替畑及燒畑ハ勞力ヲ要スルコト多大ナル割合ニ收益僅少ナリ殊ニ數十年ノ永キ期間ニ漸ク一回ノ燒キ開キヲ爲シ得ルニ過キサルカ故ニ前記各種ノ作付ト同時ニ漆樹ヲ植栽シ後ハ間作物ヲ舊來ノ如ク收納シ而シテ其後適當ノ年數ヲ經テ漆樹林トナスヲ利アリトスルモノノ如シ而シテ漆液採取後ハ根株ヨリ新條ノ藁木ヲ利用シ混農林業ヲ行フコト前段ニ述フルカ如クナスヲ利トス

### 五、漆樹ノ害蟲

漆樹ノ害蟲ニ就テハ未タ之ヲ詳ニセルモノナキモ大中道山林技手ノ栃木、茨城縣地方ニ於ケル漆樹調査復命書ヨリ其要領ヲ摘録スレハ左ノ如シ

漆樹ノ發育ニ加害ヲナスモノハ葉ヲ蠶食スル栗蟲蛾ト一種ノ穿孔蟲ナリトス此内最モ被害ノ激甚ナルハ栗蟲蛾ナリトス栗蟲蛾ハ天蠶蛾族ニ屬スル大形ノ蛾ニシテ幼蟲ハ四月下旬ヨリ五月上旬ノ間ニ孵化シ始メハ黒色ノ長毛ヲ生スルモ成育スルニ從ヒ淡綠色ニ變シ白色ノ長毛ヲ被ムルニ至ル成熟セルモノハ三寸内外トナリ頭部ハ黃綠ナルモ背面ハ青白ノ長毛ヲ生シ青色ヲ呈ス幼蟲ハ漆ノ葉ヲ食ス此幼蟲ハ成熟シテ六月下旬ヨリ七月ニ至リテ絲ヲ吐キ數枚ノ葉ノ間ニ繭ヲ作り一週間ノ後蛹トナリ八月下旬乃至十月上旬蛾トナリ樹幹ニ卵ヲ産附ス繭ハ橢圓形ニシテ長サ一寸二、三分一見金網ヲ張リタルカ如クニシテ灰褐色ヲ呈シ繭内ノ蛹ヲ透視スルヲ得ヘシ通常繭ハ數葉ヲ集メタル巢ノ中ニアルカ故ニ其所在

顯著ナラス蛹ハ濃褐色ニシテ長サ一寸前後アリ此害蟲ハ幼蟲時代ニ竹竿ヲ以テ枝ヲ敲キ幼蟲ノ墜下スルヲ捕殺スルコトヲ得ルモ比較的效果アルハ卵ノ時代ニ之ヲ驅除スルヲ良トスルモノノ如シ即チ卵ハ灰褐色ノ長サ四、五厘乃至二、三厘ノ圓筒形ヲ呈シ黒色ノ環紋ヲ存ス樹幹ノ南面セル樹皮ノ滑カナル部分若クハ枝ノ下部或ハ表皮ノ剝離セル部分ニ數百顆宛縱ニ竝ヘテ之ヲ産附スルヲ以テ之ヲ剝クトキハ一度ニ數十粒ヲ取ルコトヲ得ヘシト

### 第五節 漆樹ノ萌芽更新法

現今各地ニ於テ養生搔ヲ行フモノ極メテ尠ク多クハ殺搔法ニ依ル即チ漆液ノ採取ヲ終レハ根元ヨリ之ヲ伐採シ切株ヨリ萌芽セシメテ更ニ新林ヲ形成セシム伐採方法ハ切口ヲ滑ニ切ルトキハ切口ヨリ萌芽シ後繼樹ノ生育良好ナラスト稱シ斧或ハ鉈ヲ以テ伐採シ根際ヨリ丈夫ナル萌芽ヲナサシムル地方アリ此根上リ萌芽ニ依リテ育成セルモノハ一見天然下種ニ依リ發生セルモノノ如シ若シ夫レ櫟ノ如ク切株ノ切口ヨリ萌芽セシモノハ材脆キカ故ニ風ノ爲メニ挫折スルモノ多シト謂フ依テ一本ノ切株ヨリ多數ノ萌芽ヲ發生セル場合ニハ其長クシテ一、二尺トナレル頃健全ナルモノ一、二本ヲ殘シテ他ハ之ヲ搔キ取ルヲ要ス而シテ現今普通ニ行ハルル更新年數ハ地方ニ依リテ同シカラス會津地方ニテハ植栽後二十年ヲ以テ更新スルモノ最モ多ク中ニハ九年目ニ第一回ノ更新ヲ行ヒ爾後六、七年毎ニ採液伐採シテ萌





(夏ノ終リ)ニ漆樹ノ所在地ヲ廻リテ翌春採漆シ得ヘキ木ヲ見定メ置キ漆樹所有者ニ交渉シテ木代金ヲ支拂ヒ翌年産漆量ノ概算ヲ爲シ之ニ要スル掻取人夫ヲ伴ヒ來リ或ハ傭ヒ入レテ掻取ラシメタル上問屋(或ハ黒目屋ニ直賣スル場合モアリ)ニ送荷スルモノトス元締及漆掻人夫ハ地元在住ノモノ尠ク主トシテ新潟、福井兩縣下ヨリ出稼スルモノトス福井縣ノ漆掻人夫ハ新潟縣ノモノニ比シ熟練セルモノ多シ往時ハ地元民ニシテ掻取法ヲ習ヒ之ニ從事セシモノアリシモ最近著シク其數ヲ減セリ勿論中ニハ漆栽培者カ直接漆掻人夫ヲ雇ヒ入レテ掻取ラシメ元締ノ手ニ依ラステシ之ヲ問屋ニ直送スル例アリト雖モ是レ極メテ稀レナリ茲ニ於テカ栽培者ニ直接關係アル元締及掻取人夫ノ所得ハ物價並勞銀ノ騰貴ニ伴ヒ昂上セルモ漆樹ノ價額ハ其割合ニ昂上セサルカ如キ觀アルヲ以テ目前ノ收利ニ急ナル農家ハ之カ増殖ヲ圖ラサルナリ若シ是ヲ立木賣トナサスシテ漆掻人夫ヲ雇ヒ入レテ掻取ルモノトセハ數倍ノ收得アルヘシ更ニ栽培者カ自家ノ副業トシテ掻取ノ業ヲモナストセハ一層有利ナルヲ疑ハス

一、漆掻取人夫減少ノ模様 本邦ニ於ケル漆液ノ掻取ハ一種ノ技術ヲ要スル點アルト之ニ慣レサルモノハ氣觸レ易キ點アルトニ依リ所有者各自ニ之ヲ行フハ極メテ稀有ノ例ニシテ多クハ漆掻人夫ナルモノニ依テ掻取ルヲ例トセリ漆掻人夫ハ古來ノ慣習上或ル地方ノ農家カ其掻取季間丈ケ之ヲ兼業トセルモノニシテ漆主産地方ハ多少該人夫ヲ有スト雖モ最モ多數ニ之ヲ有シ且熟練ノ名アルハ古來二、三ノ地方ニ過キス是等ハ總テ遠隔ノ地方ヘモ出稼スルモノニシテ此外一縣内一郡内ノ出稼ニ止ルモノ

ヲ有スル地方ナキニアラス今大正六年各府縣ノ調査ニ依ル漆掻人夫ヲ有スル地方ヲ掲クレハ左ノ如シ

一、縣外へ出稼スル漆掻人夫ヲ有スル地方

京都府、兵庫縣、新潟縣、奈良縣、福井縣、石川縣、岡山縣、廣島縣、德島縣、愛媛縣、計十府縣

二、縣内ニ於テ漆掻人夫ヲ有スル地方(前記各府縣ノ外左ノ如シ)

神奈川縣、埼玉縣、茨城縣、栃木縣、長野縣、巖手縣、青森縣、山形縣、秋田縣、鳥取縣、和歌山縣、熊本縣、宮崎縣 計十三縣

依是觀之ハ四十六府縣中二十三府縣ハ漆掻人夫ヲ有スルモノニシテ他ノ二十三府縣ニハ之ヲ有セサルモノナリ其之ヲ有スル府縣中ニアリテモ僅ニ數人ヲ有スルニ過キサル府縣アリ而シテ最モ多數ニ之ヲ有スルハ福井縣、新潟縣ナリトス是等ノ漆掻人夫カ年々果シテ幾何ノ減少ヲナセルカニ就テ見ルヘキ數字上ノ材料ナシト雖モ漸次減少ノ事實アルハ爭フヘカラサル所ナリトス漆掻人夫ハ日給ヲ以テ雇入ラルル場合ハ極メテ稀レニシテ多クハ一期若干ト云フ賃金ト採取液ノ多少、良否等ニ應シテ別途ノ手當ヲ受クルヲ例トシ更ニ若干ノ旅費ヲ受クルモノナリ故ニ好績ヲ舉ケ得タル場合ハ相當ノ所得ヲ齎シテ歸郷スルモノアルモ多クハ唯稼中ノ衣食ヲ辨シ得ルノミニシテ何等ノ餘裕ナキナリ是レ原料木カ逐次散在ニ傾キテ充分ニ掻取作業ノ功程ヲ舉ケ難キニ依ルモノノ如シ

二、漆液採取人夫 (明治四十年、大正六年) 現在數比較 (△印ハ減少數)

府縣	府縣内稼		入		稼		入稼人數 (府縣内稼ト合計)	
	大正六年	四十年	大正六年	四十年	大正六年	四十年	大正六年	四十年
東京	三	六〇		七		四	三	八
京都								
大阪								
神奈川								
兵庫								
長崎								
新潟	九	三三		一〇		九	一	四
埼玉								
群馬								
千葉								
茨城								
栃木								
奈良								
三重								
愛知								

府縣	府縣内稼		入		稼		入稼人數 (府縣内稼ト合計)	
	大正六年	四十年	大正六年	四十年	大正六年	四十年	大正六年	四十年
静岡								
山梨								
滋賀								
岐阜								
長野								
宮城								
福島								
茨城								
栃木								
群馬								
千葉								
山形								
秋田								
福井								
石川								
富山								
鳥取								
島根								
岡山								
広島								
山口								

計	北海道	沖繩	鹿兒島	宮崎	熊本	佐賀	大分	福岡	高知	愛媛	香川	徳島	和歌山
七四				九	四					二五		四〇	三〇
三、四〇五				三六	七				三三	六二		一七	一三
				△	△				△	△		△	一七
				七	三				三三	四七		一六	一七
三二										一		七	
一、八八三									二	三		三〇	
									△	△		五	
									二	九			
二二													
一、二五八										八		三	三
										△		△	△
										八		三	三
八九七										一五		四〇	三〇
四、六六三										七〇		二四	一六
										△		△	△
										二二		二四	一四
										△		△	△
										五五		一七	一四

大正十一年現在漆採取人夫數、縣内稼ト入稼トノ合計ハ詳ナラサルモ當業者ノ見積リニ依レハ約五百四五十人ナラサヘシ

三、本邦ニ於ケル漆液採取ノ季節及期間——其年ノ氣候ニ依リテ多少ノ相異アルモ栃木、茨城地方ニアリテハ六月初旬（越前ノ採取人夫ハ毎年六月一日ニ郷里ヲ出發シ三日ニ山元ニ到着シ四日ヨリ仕事ニ取懸ルヲ普通トス）ヨリ著手シ十二月上旬ニ終ハル百八十日間トス此間産漆量ノ多キハ七月中

中旬ヨリ九月中旬ニ至ル約二箇月間トス

四、一人一期間ノ採取木數——搔夫一人一箇年間ニ採取ヲナシ得ヘキ本數ハ漆樹ノ太サ、散在ノ状態及採取人夫ノ技能ニ依リテ差異アリ漆樹ノ栽培盛ナリシ往時ニアリテハ九百本乃至千本ヲ以テ一人山トナセシモ現今ニアリテハ漆樹ハ各地ニ數本宛散在シ且遠キハ一里半乃至二里ノ距離ニアルヲ以テ途中ノ往復ニ時間ヲ要シ普通六百乃至八百本ニシテ平均七百乃至七百五十本ヲ一人山トス今一人搔キ山ノ本數ニ就キ林業試験報告第五號ヨリ其要領ヲ摘録スレハ左ノ如シ

漆液ヲ採取スルニハ普通一人搔キ山ト稱シテ或ル一區域内ニ所要ノ漆樹數百本ヲ選定シテ一人ノ漆搔人夫ヲシテ之ヨリ漆液ヲ採取セシム而シテ採取技能ノ巧拙、樹ノ大小殊ニ區域ノ廣狹、地勢ノ便否、採取方法ノ如何等ハ採漆上ノ難易ニ至大ノ關係アルモノナレハ一人搔キ山ノ漆樹本數モ從テ一定セルモノニアラス然レトモ普通畑地又ハ山間等ニ群生セル漆樹林ニアリテハ胸高周圍六寸五分——七寸五分ノモノ（七、八年生）八百本ヲ以テ殺搔法ノ一人搔キ山即チ一人分トス而シテ之ヨリ採漆スルニハ先ツ此八百本ヲ四區ニ分チ其一區即チ二百本ツツヲ毎日採漆シテ四日間ニシテ全部ノ採漆ヲ終リ五日目ニハ更ニ前ノ二百本ニ戻リテ第二回ノ採取ヲ行フモノトス而シテ六月上旬ヨリ七、八月頃ニ於テハ樹ノ生育盛ナルカ故ニ漆ノ分泌量可ナリ多シト雖モ日中ノ時間又長クシテ寧ロ仕事ニ餘裕アル位ナリサレト九月ヨリ以後ハ日中ノ時間短クシテ一日ニ二百本ヲ採漆スルコト容易ナラス故

ニ此等ノ點ヨリ日ニ二百本ツツ即チ總本數八百本ヲ以テ殺搔法ノ一人搔キ山トシテ極メテ普通トス  
 鼓搔法ニアリテハ樹幹ノ採漆傷數箇所前法ニ比シ遙ニ多クシテ前者ノ九箇所、十箇所ナルニ對シ十  
 三、四箇所ヲ附クルヲ普通トシ爲ニ每樹ノ採取ニ可ナリノ手數ヲ要シ在來ノ殺搔法ノ如ク一日ニ二  
 百本ヲ搔クコト到底不可能ニシテ今回ノ試驗ニ依レハ日ニ百五十本ツツ採漆スルヲ以テ尤モ至當ナ  
 リト認メタリ即チ四日分六百本ヲ以テ鼓搔法ノ一人搔山トセリ

五、漆液採取ノ順序及方法——各地ニ最モ普通ニ行ハルル殺搔法ノ邊搔、裏目搔（梢搔）止搔（留搔）  
 等ヲ説明センニ搔取人夫ハ毎年六月一日福井縣（或ハ新潟縣）ヲ出發シ六月三日山元（關東地方）ニ到  
 著シ四日仕事ニ著手ス搔取人夫ハ先ツ元締又ハ番頭ニ從ヒ自分ノ持山ノ案内ヲ受ケ之ト同時ニ搔取  
 ニ便ナラシムル爲各樹ノ根元ノ雜草、荊棘等ヲ刈拂フモノトス而シテ崖地ニアル漆樹ニ對シテハ鋤  
 ニテ足場ヲ作ル等採取上ノ豫業ヲナシテ搔取ノ順序ヲ定ム次ニ各樹ニ就キ目立ヲナス此方法ハ先ツ  
 地上七寸ニ幅一分二、三厘長サ三分位ノ橫溝ヲ劃シ之ヨリ左右五寸五分置キニ同一ノ橫溝ヲ附ス之  
 漆液ノ採取ヲ目的トセス單ニ邊搔ノ位置ヲ定ムルニ過キササルヲ以テ深ク切り込マサルモノトス往時  
 ハ目立ノ間隔ヲ尺二寸トシ左右五段ト四段トセシモ最近採取法ノ集約トナリシ結果此間隔ヲ一尺一  
 寸ニ短縮シ左右共一段ツツ増加セリ（目立ノ數ハ右方六段、左方五段トス）此方法ハ八日乃至十日間  
 ニシテ終ルヲ普通トス二回目ヨリハ一人分擔ノ本數ヲ四分シテ一日分ノ仕事トナシ四日間ニ全木數

ヲ一巡シ五日目毎ニ最初ノ木ニ戻ル即チ邊搔モ亦一日ニ總數ノ四分ノ一宛搔キ取り四日ニ全部ヲ一  
 周ス（初回ノ邊搔ヲ鎌揚ト稱スル地方アリ）即チ搔取著手ヨリ秋季彼岸前後マテニ二十五回廻ルヲ普  
 通トス（神奈川、愛知、岐阜諸縣ニアリテハ氣候ノ關係上二十六回廻ルモ差間チ生セス）此作業ヲ邊搔ト稱ス邊搔ノ日數ハ搔夫ノ勉、不勉ニ依リ功程  
 ニ著シキ差異アルハ勿論往時ノ如ク漆樹群生ノ場合ニアリテハ大抵秋季彼岸前一週間内ニ之ヲ終リ  
 タルモノナルモ現今ノ如ク漆樹ノ散生セルモノアリテハ已ムナク日數ヲ延長スルモノアリ邊搔ヲ終  
 レハ二日間休業シ此間ニ梯子ヲ作り或ハ裏目搔ノ準備ヲナス裏目搔ハ約二十日間ニテ一周ス裏目搔  
 終レハ止搔ニ移ル止搔モ亦一周ニ二十日間ヲ要ス即チ裏目搔、止搔ニハ邊搔一日分ヲ搔クニ五日間  
 ヲ要スルヲ普通トス次ニ枝ノ切取及蒐集ニ十日間ヲ要ス枝切取ヲナセハコレヲ自宅ニ持テ歸リ鎌枝  
 及瀟濕搔ヲナス之ニ約十日間ヲ要ス斯ク裏目搔ヨリ止メ搔迄六十日間ヲ要スルモノナリ

邊搔ノ方法ハ先ツ一本ノ木ニ付皮剝鎌ヲ以テ其日ニ搔取リヲナサントスル部分ノ表皮ヲ薄ク削リ滑  
 カニシ搔鎌（其溝）ニテ形成層マテ樹皮ヲ削リ取り溝ヲ作ル（溝ノ幅ハ鎌口ノ幅トス搔鎌ニテ搔キ取  
 リタル削リ屑カ三枚ニ剝離スルヲ上手トス）次ニ搔鎌ノ背部ニアル小刀ヲ以テ深ク材部ニ達スルマ  
 テ切り込ム是ヲ目刺ト云フ目刺ハ溝ノ兩端ヲ深クシ中央ヲ淺クス（目刺ハ鎌口ニテ破リ切ラサル漆  
 線ヲ切り破ルナリ）又地方ニ依リテハ目刺ヲナストキハ出液早キモ樹勢ノ衰弱ヲ來スト稱シ邊搔八  
 九回マテハ目刺ヲ行ハサルモノアリ搔溝ヲ作レハ漆液ハ乳狀ヲナシテ溝内ニ浸出ス之ヲ搔篋ヲ用ヒ

テ採取スルモノトス斯クシテ一溝宛搔取ヲナシテ他ノ木ニ移リ六、七本ヲ搔キ終リタルトキハ最初ノ木ニ戻リ其日ニ傷ケタル溝ニ浸出セル漆液ヲ再ヒ搔キ取ルナリ斯ク一本ノ溝ヨリ二回ノ探液ヲナス二回探液後ニ於テモ多少漆液ノ浸出スルコトアルモ經濟上引合ハサルモノトシテ之ヲ搔キ取ルモノ極メテ稀レナリ

(注意) 皮剝鎌ヲ以テ表皮ヲ削リ取ルハ必ス其日ニ搔溝ヲ附スル部分ニ限レリ夫レ以上多ク削リ取ラサルヲ要ス若シ幅廣ク剝キ取ルトキハ樹勢衰弱シテ産漆量減少スト云フ

邊搔ノ方法ハ樹徑ノ大小ニ依リ差異アルモ樹周六、七寸ノモノニアリテハ揚鎌ノ溝ノ長サヲ普通五分内外トシ一回毎ニ溝ノ長サヲ延長ス其割合ハ手先二分、手元一分位ヲ普通トス而シテ十回ヨリ十二回目ニ至リテ溝ノ全長ニ達シ之ヨリ更ニ延長セス即チ樹周六寸ノモノニアリテハ三寸五分マテトス又溝ト溝トノ間隔ハ通常溝幅ト同シクス而シテ目立ヨリ邊搔ノ終マテノ長サハ六寸又ハ七寸マデトス(溝ト溝トノ間即チ搔傷ヲ附ケサル部分ヲ障子ト稱ス)又溝ノ形ハ搔取人夫ノ僻ニ依リ直線、彎曲線等種々ノ形ヲナスト雖モ直線ヲ良トス普通水平ニ劃スルモ胸高ヨリ上ノ邊搔ノ溝ハ手元ヲ下ケ稍々斜ニスルヲ良トス是レ篋ヲ用ヒテ探漆スルニ便ナレハナリ邊搔ハ半夏生マテニ五回(栃木、茨城地方)土用入迄二十回探液シ秋季彼岸前後マテニ二十五回探液スルヲ普通トスルモ天候ニ依リ二十五回探液シ得サル場合多シト云フ邊搔ノ溝ノ長サハ前述ノ如ク十回乃至十二回ヲ以テ最長ニ延

シ切ルヲ例トスルモ若シ天候不良ニシテ豫定ノ搔取リヲナスコトヲ得ス土用ニ入ルモ尙ホ最長ニ達セストノ見込付キタルトキハ一回毎ノ延長部分ヲ多クシ土用ニ入リテ最長ニ引キ延スヲ要ス然レトモ多クノ場合ニ於テ四、五回目ニ最長ニナストキハ樹勢衰へ最初ノ産漆量ハ一時増加スト雖モ總量ニ於テ減收ヲ來スヲ免レス故ニ邊搔ハ徐々ニ其溝ヲ延長スルヲ利ナリトセラル是レ徐々ニ延長スルハ樹幹ニ於ケル漆液ノ生産ニ伴ヒテ採取セントスルモノニシテ漆液ハ其生産セラルルニ伴ヒ溝ニ誘致セラルモノノ如シ又目立ノ間隔ヲ一尺以下ニ短縮シ目立ノ數ヲ増加スルカ如キモ多數ノ傷ヲ附スルカ故ニ樹勢衰へ産漆量減少ヲ來スモノノ如ク現下各地ニ行ハルル邊搔ヲナス部分ハ長七寸内外ニシテ邊搔ノ最終ニ於テ目立ト邊搔トノ間ニ傷ヲ附ケサル部分ニ四寸ノ餘地ヲ殘スモノトス邊搔ヲ終レハ裏目搔ヲナス裏目搔ハ搔鎌ヲ用キテ各邊搔ノ上方ト目立ノ下方トニ一本宛搔溝ヲ作り篋ヲ以テ漆液ヲ採取ス而シテ邊搔ヲ爲ササル上方ノ部分ハ五、六寸毎ニ表裏ヨリ搔溝ヲ附シ枝ノ部分マテヲ搔取リヲナス蓋シ其方法ハ樹幹周圍三寸位ノ部分ニ至リテ止ム裏目搔ノ溝ノ長サハ樹周ノ半分以上ニ達シ兩側ハ五分位宛喰ヒ違ハシム止搔ハ裏目搔ノ間ニ一寸二、三分ノ間隔ニ二本宛搔溝ヲ作り三本ヲ以テ樹幹ヲ一周スル様ニナシ互ヒニ喰ヒ違ヒヲナサシム之ヲ止三角ト云フ此止搔ニテ全ク樹液流動ノ通路ヲ絶ツモノトス以上ハ立木ノ儘ノ搔取作業ニシテ止搔ヲ終レハ鎌傷ノ入ラサル枝ヲ切り落シ三尺内外ノ長サニ切り之ヲ束トナシ二十本内外ヲ一束トシ(末木ハ五十本内外)枝ノ元口ヲ揃

ヘテ流水中ニ之ヲ立テ藤蔓ニテ縛リ流失ヲ防ク停滯セル水中ニ沈メ置クハ不可ナリ枝ノ數量ハ一人山八百本ノ木ヨリ三尺繩ハ七十束ヲ得此枝ヲ切り落スニ約十日間ヲ要ス枝拂ヲ終レハ流水中ニアル最初ニ浸水セルモノヨリ漸次引上ケ元口ヲ削リ枝漆ヲ採取ス末木ヨリ瀨ハ漆ヲ採取ス枝漆採取ノ原料ハ周圍七、八分ヨリ三寸位マテノモノナルヲ以テ枝ノ太キ部分ハ鎌枝ト稱シ邊搔ニ用ウルモノヨリモ稍々溝幅ノ廣キ搔鎌ニ長サ四寸五分徑一寸ノ丸竹ヲ直角ニ貫キタルモノヲ以テ豫メ及先ノ寸法ヲ一定シタルモノヲ枝ニ當テテ溝ヲ附シ篋ヲ以テ搔取ヲナス伐採シタル儘ノ枝ハ出液少ク採取困難ナルモ之ヲ水ニ浸シ置クトキハ粘氣ヲ帶ヒ採取シ易クナリ且ツ其量モ増加ス現今ニ於テハ生活費ノ高マリタル爲枝搔ハ收支引合ハサル場合多キヲ以テ全部ノ枝搔ヲ行フコトナシ唯翌年ノ燃料ヲ得ルニ足ル丈ケヲ行フヲ普通トス(周圍一寸内外ノモノハ瀨ハ漆ヲ採リ其他ハ凡テ枝漆ヲ採ルモノトス)枝徑一寸五分以下ノモノハ三尺四方ノ臺ノ中央ニ横ハレル横木ニ六寸置キニ設ケタル孔ニ元口ヲ當テ小刀ヲ以テ一寸五分置キニ深サ材部ニ達スル程度ニ切レ目ヲ入ル其方法ハ及物ノ手元ヲ下ケ切レ目ノ兩端ハ斜ニ喰ヒ違ヒヲナサシム切レ目ヲ入レタルトキハ臺ノ上ニ横ニ枕ヲ置キテ其上ニ竝ヘ置キ一束ノ枝ニ切レ目ヲ入レ終レハ漆液ノ傷口ニ浮キ上ルヲ俟テ瀨ハ漆ヲ切レ目ニ當テテ枝ヲ廻ハシツツ絞リ出ストキハ壓出セラレタル漆液ハ鎌ノ背部ヲ傳ハリテ流出スルニ至ルヘシ瀨ハ漆ノ搔方ハ切レ目ハ枝ノ元口ヨリ上ニ附ケ上リ鎌ハ上ヨリ下ニ附ケ下ルモノトス瀨ハ漆採取ノ頃ハ寒氣ノ加ルヲ

普通トス故ニ枝材ヲ焚火ニ温メ漆液ノ粘質ヲ増サシメテ搔取ルヲ良トス

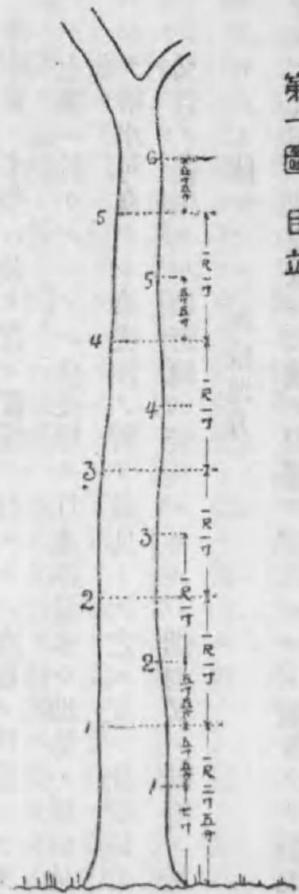
六、産漆量ノ多寡 産漆量ハ樹性、土質、期節、天候、樹齡、樹ノ太サ竝搔取人夫ノ巧拙等ニ依リ差等アルハ勿論ナリトス而シテ此等ノ關係ニ就テハ調査資料未タ充分ナラサルニ依リ明瞭ナラサルモ地方實驗家ノ說ヲ綜合シタル處ヲ掲クレハ

(一) 樹性 漆樹ニハ雌雄ノ別アルモ産漆量ノ多少ハ之ヲ詳カニセス蓋シ雌木ノ結實セル歲ハ雄木ヨリ産漆量劣ルカ故ニ搔取人夫ハ春季實ヲ未熟ノ中ニ取り去リ雌木ノ産漆量ヲ多カラシム又地方ニ依リテハ實ト原木トヲ別チテ搔取人夫ニ賣却スルモノアリ而シテ枝葉多ク樹勢旺盛ナルモノハ出液多ク樹皮ノ灰白色ヲ帶ヒ俗ニ胡桃膚ト稱スルモノハ梨膚ニ比シ産漆量多シ又同一直徑ニシテ老齡ノモノハ若木ヨリ其量多ク而モ其品質概シテ良好ナリ二十年生前後ヲ以テ最モ適當トスルカ如シ

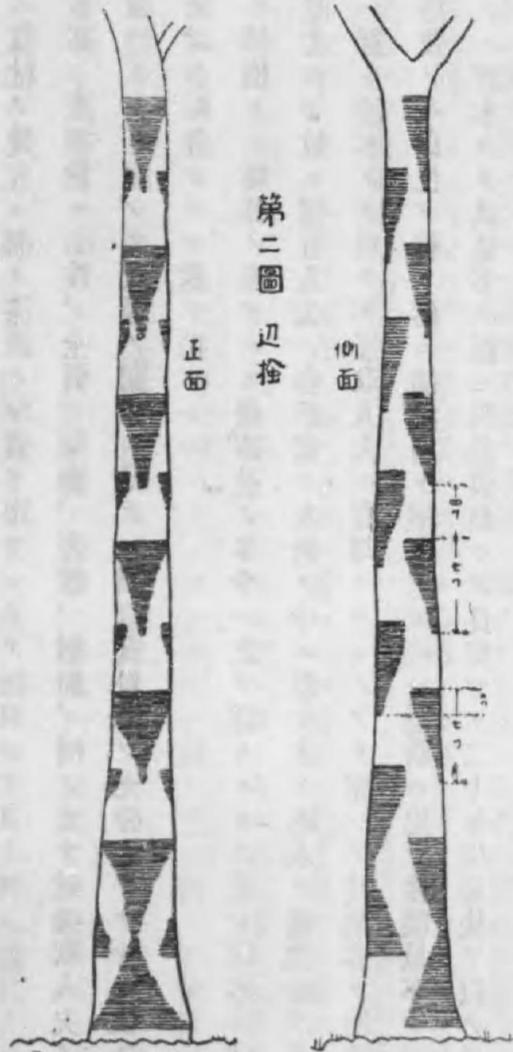
(二) 土質 産漆量ノ多少ニ最モ深キ關係ヲ有スルハ立地ノ状態ニアリ古生層ノ綠泥岩、粘板岩等凡テ新鮮ナル土壤ニ於ケルモノハ生長早ク且産漆量多シ地勢ハ緩斜地ニシテ地味肥沃且表土深キ砂質壤土ニシテ排水可良ナル滲透性ノ所ヲ最良トス之ニ反シ庇蔭地若クハ林縁ニ生立スルモノハ産漆量少ナシ又萱ノ叢生セル原野地ニ於ケルモノハ畑地又ハ畦畔ニ於ケルモノヨリ産漆量普通三割位ヲ減スルモノト稱セラル(茨城地方)

(三) 採取時季ノ天候 産漆量ハ天候ノ影響ヲ受クルコト顯著ナリ曇天ト晴天トハ六ト四乃至八ト

第一圖 目立

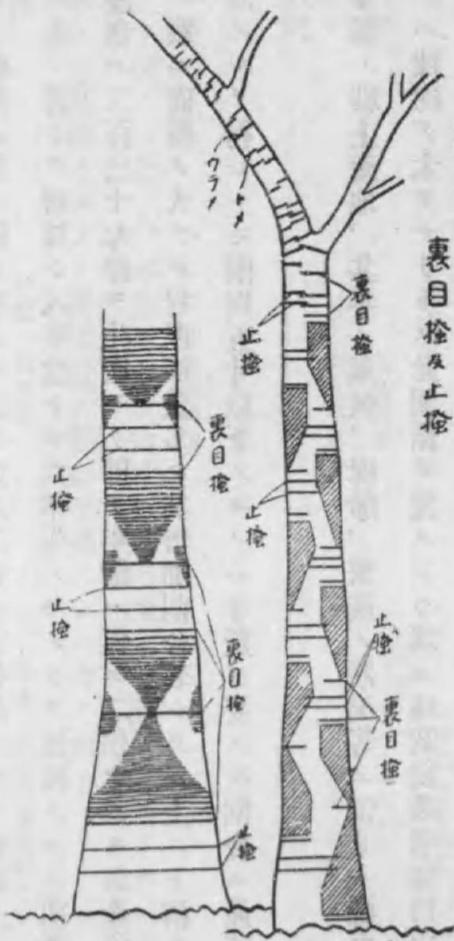


第二圖 辺檢



第三圖

裏目檢及止檢



七トノ割合ニシテ又同日中ニテモ朝夕ハ多ク白味ヲ帶フ朝未タ露ノ乾カサルマテニハ産漆量最多ク夕方之ニ亞キ日中ハ最少ナルモ品質優良ニシテ赤味ヲ帶フ又降雨ノ日ニハ絶對ニ掻取ヲナサルモノトス是レ漆液ニ雨水ノ混入スルヲ忌ムノミナラス雨天又ハ樹皮ノ乾カサル中ニ掻傷ヲ付スルトキハ傷口ヨリ雨水浸入シ其部分ヨリ腐朽シ樹勢衰へ産漆量減少スト云フ殊ニ老大木ニアリテハ雨中ニ二、三回掻傷ヲ作ルトキハ爲ニ枯死スルコトアリ注意スヘシ

(四) 樹齡及徑級 漆樹ヲ植栽シテヨリ漆液ヲ採取スルニ至ルマテノ期間ハ地方ニ依リ區々ナリ會

津地方ニテハ前記ノ如ク二十五年乃至三十年ヲ以テ漆液最多ノ時季ト稱スルモ實際ハ十年生ヨリ採取ヲ始ムルモノアリ又四十年生ニ於テ之ヲナスモノアリ巖手地方ニアリテハ植栽後十四年生ニシテ幹ノ直徑(地上一尺高ノ所)五、六寸ニ至レハ之ヲ始ム熊本、茨城、栃木地方ニアリテハ植栽後六、七年ニシテ採取ヲ始ム是レ木主カ萌芽力ノ保續ヲ圖ル爲若木ノ伐採ヲ好ムト一ハ樹數著シク減少セル爲若木ノ搔取リヲ餘義ナクセル爲ナリ敢テ經濟上ノ得失ヨリ打算セルモノニアラス林業試験報告(第三回)ニ依レハ漆液採取ノ原木ハ現今通例使用セラルルカ如キ樹周六、七寸ノ小木ヲ用ウルヨリモ事情ノ許ス限リ努メテ之ヲ大木ト成シテ採漆スルヲ利益トス是レ漆樹ノ産漆量ハ樹木ノ太サニ依リ著シク増加シ八年生ト十六年生ノモノトヲ比較スルニ前者ハ一本平均四十匁弱ヲ産スルモ後者ハ三百三十匁餘ヲ生産セリ即チ年齡ハ僅ニ二倍ナルモ其産漆量ハ實ニ八倍餘ニ達スレハナリ一般ニ直徑ノ大ナル程産漆量多ク其増加割合著シク昂上スト稱セラル蓋シ漆樹ハ四年生頃ヨリ採漆スルヲ得レトモ樹周五寸以下ノモノハ手數ヲ要スル割合ニ産漆量少キヲ以テ搔夫ノ採ラサル所ナリ

産漆量ノ多寡ハ紋上産地、其年ノ氣候、樹齡、繁茂ノ狀況等ニ依リ一様ナラサルモ就中採漆ト深キ關係アルハ漆樹ノ太サナリトス此關係ヲ究メンカ爲ニ林業試験場樋口山林技手ノ茨城縣久慈郡栃原ニ於ケル漆樹林ニ就テ同シ太サノモノ二十本ツツ四種八十本ヲ選出シ(六月二十二日ヨリ七

月三十日ニ至ル間)殺搔法ニ依リテ採漆シタル成績ヲ擧クレハ

樹 周	産漆量(二十本分)	(平均一本當リ産漆量)
五寸乃至六寸	五九五匁	二九・七
六寸乃至七寸	七五六匁	三七・八
七寸乃至八寸	九一七匁	四五・八
八寸乃至一尺	一三六三匁	六八・一
一尺乃至一尺二寸	二二七九匁	一一三・九
樹 周	半徑ノ自乘比	産漆ノ割合(産漆率)
六寸五分乃至七寸五分	一・〇〇	一・〇〇
五寸乃至六寸	〇・六二	〇・七二
六寸乃至七寸	〇・八六	〇・八二
七寸乃至八寸	一・一五	一・〇九
八寸乃至一尺	一・六五	一・六四
一尺乃至一尺二寸	二・四八	二・七四

而シテ普通採漆ヲ行フハ七、八年生ノ太サ六寸五分乃至七寸五分ノモノナルヲ以テ之ニ對スル産漆量八四一匁ヲ標準トシ其他ノモノノ産漆量ノ割合ヲ掲クレハ次ノ如シ

以上試験ノ結果ヲ見ルニ樹周ノ増スト共ニ産漆量増加シ其割合ハ樹周ヨリモ大體樹木ノ半徑ノ自乘ニ正比例ヲナシ増加スルモノト謂フモ大過ナカルヘシ

(五) 採取方ノ巧拙 同一ノ木ニ在リテモ採取方ノ巧拙ニ依リ産漆量ニ影響ヲ爲ス即チ採取人夫ニ依リテハ邊搔ノ長サヲ一定セス或者ハ土用物ヲ多ク採取シ或者ハ秋物ヲ多ク採取シ土用物ヲ多ク採ルモノハ始メヨリ邊搔ノ溝ヲ長クスルヲ以テ秋季ニ至レハ産漆量著シク減少スルヲ免レサルモ品質良好ナルモノヲ多ク採リ得ルノ利アリ又秋物ヲ多ク採ルモノハ夏季、秋季ヲ通シテ日々ノ採漆量ニ大差ナシ

兩者ノ得失ニ就テハ尙ホ詳細ナル實驗ヲ俟タサンハ言ヒ難キモ土用物ヲ多ク採ル方利益ナルカ如シ

(六) 採取季節トノ關係 蓋シ春季ヨリ初夏土用前ニ施ス邊搔ハ多量ノ採漆ヲ目的トスルモノニアラス傷口ニ漆液ノ集リ來ル慣習ヲ附スルニ過キサルカ故ニ産漆量少キモノトス七月下旬ヨリ九月上旬マテハ産漆量モ最多ク秋季ニ入リテ減少ス其増減ノ割合ハ採取ノ方法ニ依リ多少ノ差アルヲ免レサルモ從來採取リタル實例ヲ示セハ左表ノ如シ

(第一例) 茨城縣久慈郡上小川村小山田新造所有山林内 十四、五年生直徑六寸最大一尺三寸ノ漆樹(八百本)平均八寸ノモノニ就キ採取人夫ヲ直接雇ヒ入レ採取セシメタルモノナリ

(第二例) 栃木縣芳賀郡茂木町高野五右衛門所有山林漆樹六百五十本(直徑六寸乃至八寸)ヲ採取シタルモノナリ

採取方法	回数	第一例		第二例	
		月日	産漆量	月日	産漆量
目立		自六月四日至同十四日	一、二〇	自六月一日至同六日	一三五
邊搔(初物)	一(揚鎌)	自八月八日至同十五日	一、二〇	自同月七日至同十日	一九五
〃	二	自二十九日至三十一日	三二〇	自同月十一日至同十四日	二九五
〃	三	自二十七日至二十九日	四三〇	自十九日至二十一日	四六五
〃	四	七月一日至三日	七六〇	自二十三日至二十五日	六一〇
〃	五	七月七日至九日	九二〇	自二十七日至二十九日	六二〇
〃	六	七月十一日至十三日	九七五	七月二十八日至三十日	八四五
〃	七	七月十五日至十七日	一、一四〇	自五日至七日	九三〇
〃	八	七月十九日至二十一日	九五〇	自十七日至十九日	九二〇
〃	九	七月二十三日至二十五日	一、五六〇	自十一日至十三日	七四五
〃	一〇	七月二十七日至二十九日	一、〇五〇	自十五日至十七日	

ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク
(	(	(	(	(	(	(	(	(	(	(	(	(
ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク
二二	二二	二二	二〇	一九	一八	一七	一六	一五	一四	一三	一二	一一
八月二十八日												
一、六一〇												
二十九日												
八八〇												

枝	嘉	ク	ク
計	止	(	(
振	目	ク	ク
		二五	二四
三月十一日	十一月二十日	十月二十九日	十月二十九日
二、一〇〇	五、九四〇	八四〇	一、二〇〇
十月	十月	十月	十月
二十九日	二十九日	二十九日	二十九日
五九〇	五九〇	五九〇	五九〇

(備考) 第二例ノ産漆量比較の少量ナリシハ未熟練ナル振夫ヲ使用セルト雨天ノ爲休業セルコト多カリシニ因ル

(七) 掻取ノ功程——振夫一日ノ功程ハ掻方ノ熟練程度ト漆樹所在ノ遠近トニ因リ甚シキ不同アルヲ免レス福井縣ヨリ出稼ヲナスモノハ之ヲ専門トナスカ故ニ概シテ勤勉ニシテ朝ハ未明ヨリ夜ハ星ヲ戴キテ出入スルノ狀況ナリ是ヲ以テ功程ノ如何ハ距離ノ遠近ヨリモ寧ロ掻方ノ熟練ニ依ル最近東北地方ニ於ケル實驗談ヲ徴スルニ漆樹胸高ノ周圍一尺五寸乃至一尺六寸(樹齡十五、六年乃至二十年生)ノモノ六百本ヨリ得タル産漆總量四十二貫匁即チ一本當平均七十匁、内邊搔二十七貫匁(或ハ二十八貫匁)裏目搔六貫匁、止搔三貫匁、鎌搔及瀬六貫匁トス以上ハ搔夫トシテ稍々優秀ノ成績ニ屬スルモ往時ハ五十貫匁以上ヲ搔取リタル實例尠カラス現今ニアリテハ一般ニ稼高

ヲ低下セルノ傾向アリ甚シキハ十五貫匁ニ過キサルモノヌラアリ殊ニ外來者ト土著者トハ著シク搔取ノ巧拙ヲ異ニシ自ラ功程ニ甚シキ懸隔アリ其結果搔夫ノ稼高ヲ減シ漆元縮ノ損失ヲ招キ延テハ原木代ニ影響シテ栽培業者ニ不利ナラシムル場合尠シトセス之ヲ要スルニ漆液搔取ハ從來專ラ外來ノ漆搔ニ依リ行ハレ其技術ハ殆ント越前人ノ專有ニ屬シタルノ状態ナリシカ現今ニアリテハ漆樹ノ減少ニ伴ヒ外來者モ漸ク其數ヲ減シ又土著人ニテ之ヲ爲スコト不可能ナラサルノ傾向ヲ示セルヲ以テ今後漸次其面目ヲ一新スルニ至ラン

(八) 漆液ノ品質——良質ノ漆液ハ水分及混合物少ク稍々黃褐色ヲ呈シ粘質少ク光澤アリ且乾燥早キモノトス邊漆ハ漆液ノ最上品ニシテ裏目之ニ次キ止メ、技漆ハ著シク劣ル(通常邊漆ヲ正味ト稱シ其他ヲ雜液ト云フ)品質ノ良否モ亦樹性、土質、採取季節、樹齡、搔取方法等ニ依リ差等アリ林業試験報告ニ依レハ各種漆液ノ成分、乾燥力、透明度及光澤ヲ比較スルニ盛漆第一位ニシテ初漆之ニ亞キ末漆、裏目漆、止メ漆、枝漆ノ順トナル而シテ小木ノ盛漆ハ大木ノ初漆ニ稍々劣リ初漆ハ又少シク劣レリト又同試験報告ノ大木ト小木トノ品質比較試驗成績ヲ見ルニ大木ノ初漆ハ(法ニ依ルモノ以下之ニ依ル)小木(同上)ノ初漆ヨリ水分少ク漆酸ニ富ミ護膜質、含窒素物ハ少シ又大木ノ盛漆ハ小木ノモノヨリ水分少ク漆酸多量ニシテ護膜質、含窒素物ハ少シ故ニ成分ニ於テハ初漆、盛漆共ニ大木ハ小木ニ優リ而シテ大木ノ初漆ト小木ノ盛漆トヲ比較スルニ大木ノ初漆ハ小木ノ盛漆ヨリ水

分少ク漆酸多量ニシテ護膜質及含窒素物ハ少シ故ニ大木ノ初漆ハ小木ノ盛漆ニ比スルモ稍々優等ナリ各產地ノ漆液品質比較——漆液ノ主產地ニ於ケル略ホ同年齡ノ漆樹ヨリ産セル盛漆ノ成分ヲ比較スルニ次表ノ如シ(林業試験成績)

產地	採取法	漆種類	水分	漆酸	護膜質	含窒素物
神奈川縣	殺搔	盛漆	二二・二一	六九・三五	六・五四	一・四九
茨城縣	同	同	二二・二一	六七・二五	七・四〇	一・七五
岩手縣	同	同	二五・四二	六六・二〇	六・一五	二・二三

本試験ノ結果ハ神奈川縣産最良ニシテ茨城縣之ニ次キ岩手縣産最劣レルヲ見タリ又林業試験報告第五號神奈川縣下中郡秦野村大字千村所在六、七年生漆樹百本ヨリ採取セル生漆ノ成分定量表ヲ掲クレハ次ノ如シ

水分	初漆		盛漆		末漆		裏目漆		止漆及枝漆	
	殺搔	鼓搔								
水分	二六・一八	三二・九八	三三・二二	一一・二六	三三・三四	一五・六五	一六・一八	一七・六四	一七・四六	一七・四六
漆酸	六三・五一	六七・三三	六九・三五	七一・四	六六・一七	七四・五五	七五・四三	六九・六〇	七三・五二	七三・五二
護膜質	八・四一	八・〇三	六・五四	四・八六	八・二八	七・六一	五・九七	九・〇七	六・六六	六・六六
含窒素物	一・四一	一・九六	一・四九	一・三二	一・八九	二・三	二・三六	三・八八	二・八〇	二・八〇

即チ水分ハ初漆ニ最多ク盛漆ニ少シ採取季ノ遅キモノ殊ニ少シ一般ニ水分多キモノハ品質劣等ナ

リト雖止漆ノ如キハ水分少キモ含窒素物、護膜質等比較的多キヲ以テ品質優良ナルモノニ非ラス  
 (九) 養生搔ト殺搔——漆液ノ採取ハ現今ニテハ多ク殺搔法ノミニ依リ養生搔ヲナスモノ稀ナリ由  
 來養生搔ハ邊搔ノ一部ヲ行フ即チ搔數ハ殺搔ヨリ遙ニ少シ殺搔法ハ前述ノ如ク邊搔、裏目搔、止搔  
 ヲナシテ採取ヲ終ルモノトス多クノ地方ニ於テ養生搔ヲナササルハ種々ノ關係ニ因ルヘシト雖モ  
 一時ニ産漆量ノ多キヲ望ムノ傾向アルト種實ノ利用ニ重キヲ置カサルトニアルモノノ如シ又特別  
 ノ事情アル場合養生搔ニ酷似セル採取ヲナスコトアリ即チ搔夫カ病氣其他ノ事情ノ爲其年ノ採取  
 ヲ中止シ翌年之カ搔取ヲナスコトアリ此方法ヲ俗ニ年送リト稱ス年送リハ栽培者ノ忌ム所ナルヲ  
 以テ漆樹買受人ハ木主ニ賠償金ヲ支拂ヒテ年送リヲナフ此代償金ハ茨城地方ニテハ木代ノ二割ナ  
 リトス年送リ二箇年間ノ産漆量ハ尙一箇年ノ産漆量ヨリ少キ場合多シ是レ年送リノ場合ニ於テモ  
 最初ヨリ急激ニ邊搔ノ長サヲ大ニスルコトヲ得ス徐々ニ其長サヲ増加セサルヘカラス唯其速度ヲ  
 増加シテ全長ニ達セシムルノミ且ツ若木ニシテ年送リヲナストキハ萌芽力著シク衰フル場合多シ  
 普通年送リハ初年ノ邊搔十回マテノ時ニ行フヘキモノニシテ是レ以上搔キ取リタル時ハ搔傷ニ腐  
 朽ヲ誘致スルコトアリ之ニ依リテ察スルニ養生搔ハ徑一尺以上ノ大木ニハ比較的容易ニ行ヒ得ル  
 モ樹周五、六寸ノ若木ニアリテハ搔取方法拙ナルトキハ不利トスル場合アリ注意ヲ要ス然レトモ  
 養生搔ハ農閑期ヲ利用シ年々四、五回ツツ數年連續シテ一本ヲ搔キ取ルカ又ハ目立ノ間隔ヲ一尺

五寸以上ニ延長シ一箇年ニ十六、七回ツツ三年目毎ニ搔取ヲナス等就レニアリテモ栽培者自ラ  
 ハ地元搔取人夫カ農家ノ副業トシテ農閑ノ季節ヲ利用スルニ於テハ採取費ヲ節約シ得ルノ利アリ  
 ト知ルヘシ

今神奈川縣下中郡秦野村大字千村所在六、七年生漆樹一〇〇本(大小不同)ヲ試驗木トナシ之ヲ四區ニ分  
 チ殺搔ト鼓搔トノ二法ニ依リ採漆シタル林業試驗成績左ノ如シ

	殺搔法			鼓搔法		
	採取 月日	標準木一 本ノ産漆 量(匁)	採取 月日	標準木一 本ノ産漆 量(匁)	採取 月日	標準木一 本ノ産漆 量(匁)
初 漆	6 11	0.00	6 11	0.00	6 11	0.35
	6 15	0.25	6 15	0.35	6 15	0.67
	6 19	0.50	6 19	0.67	6 19	0.98
	6 24	0.78	6 24	0.98	6 24	1.29
	6 28	0.91	6 28	1.29	6 28	1.50
	7 3	1.11	7 3	1.50	7 3	2.84
	7 7	2.06	7 7	2.84	7 7	2.58
	7 10	1.86	7 10	2.58	7 10	2.27
	7 18	1.86	7 18	2.27	7 18	
	小計	9.33	小計	12.48	小計	
盛 漆	7 22	2.35	7 22	2.69	7 22	2.43
	7 29	2.27	7 29	2.43	7 29	3.61
	8 2	3.10	8 2	3.61	8 2	3.10
	8 6	3.17	8 6	3.10	8 6	2.84
	8 10	2.48	8 10	2.84	8 10	2.58
	8 15	2.48	8 15	2.58	8 15	2.17
	8 19	2.56	8 19	2.17	8 19	—
	8 23	2.60	8 23	—	8 23	—
	8 28	1.86	8 28	—	8 28	—
	9 1	1.77	9 1	—	9 1	—
小計	24.64	小計	19.42	小計		
末 漆	9 5	1.77	—	—	—	—
	9 15	1.45	—	—	—	—
	9 20	1.53	—	—	—	—
	9 26	1.53	—	—	—	—
	10 1	1.53	—	—	—	—
小計	7.81	小計	—	小計	—	
裏目漆	10 7	2.97	9 9	3.61	10 6	3.10
止漆	10 20	2.48	11 1	1.63		
枝漆	11 19	0.91	11 19	0.82		
合計	48.14	合計	41.06	合計		

是等兩法ノ結果ヲ比較スルニ全産漆量ハ鼓搔法ニ於テ約二割弱ヲ減スルト雖モ比較的短期間ニ多量ノ  
 漆液ヲ採取シ得ルヲ以テ多大ノ勞費ヲ節約スルモノノ如シ

(一〇) 漆液採取用器具

- 皮剥鎌 (採液ノ際横溝ノ口ヲ附スヘキ乳分ノ外皮ヲ薄ク削リテ滑トナスニ用ウ)
- 撮口ノ附スル器具ナリ左右ニ異リタル又アリ一ハ彎曲シテ樹皮ニ撮口ヲ附スルニ用キ一ハ銀先ノ如クニ尖ル之ニテ内皮ノ組織ヲ切り漆液ヲ滲出セシムルモノトス)
- エグリ (漆樹ノ大ナルモノハ其皮厚キカ故ニ此器ヲ以テ先ツ横溝ヲ附スヘキ部分ノ外皮ヲ削リ後ヲ撮鎌ヲ用ユルナリ) (滲出セル漆液ヲ撮取ルノ用ヲナス又末木、枝條ヨリ「セシメ」漆ヲ採取スルニハ「セシメ」籠ヲ用ウ)
- 籠 (ほほのきの皮ヲ剥キテ圓筒ヲ造リ薄キ杉板ヲ以テ其底トナス)
- 漆壺 (枝切り用)「コウケリ」(漆壺ヨリ漆液ヲ桶ニ移スニ用ウ)透篋(漆液ノ附着セルモノヲ液ヒ取ルニ用ウ)磁石、竹梯子、大小漆桶、衝、鏝等ヲ備附ケ置クノ要アルモノトス

第二節 漆實及漆材ノ利用

種子ハ外皮ト核子トニ分離セシムヘシ播種用ニ供セサルモノハ水車ヲ使用シ石臼ニテ外殻ヲ除去スルヲ普通トス核子ハ馬糧ニ供シ外皮ノ粉末ハ塵埃ヲ除キ二升位ノ小桶ノ底ニ金網ヲ張リタルモノニ入レ二、三分間蒸シテ蠟袋ニ詰メ再蒸シテ蠟脂ニ入レ下ニ淺キ箱ヲ置キ之ニ蠟分ヲ搾リ入ル而シテ浮キ上リタル夾雜物ヲ除キ凝固セシム外皮附着ノ儘ノ種子一升ヨリ精蠟二十二匁ヲ得ルヲ普通トス蠟燭ヲ製スルニハ之ヲ碎キテ鍋ニ入レ文化ニ懸ケテ攪拌シツツ燈心ヲ細キ竹ニ卷キタルモノ 五、六本ヲ兩手ニ挾ミ回轉セシメツツ蠟ヲ附着セシメテ之ヲ他ニ移シ冷却シ斯クシテ數回ニ及フモノトス

漆蠟ヲ原料トスル蠟燭ハ洋蠟ニテ製シタル所謂絲心蠟燭ニ比スルニ前者ハ油煙少ク火力強盛、燃燒遲リ盛夏ノ候ニ於テモ柔軟トナルコトナシ漂蠟ヲ精製スルニ漆蠟一貫目ニ付五合位ノ割合ニテ水ヲ加ヘ煮沸シテ箱ニ移シ夜間屋外ニ置キ外氣ニ曝シテ冷却セシムルモノトス由來漆蠟ハ往古ニアリテハ蠟燭及鬚附油ノ原料トシテ相當ノ需要アリタルモ現今蠟燭ハ石油其他ノ爲ニ需要ヲ減シ又一面蠟蠟ニ壓セラレタリト雖モ漆蠟ハ蠟蠟ニ比スレハ溶解點攝氏十度高シト云フ之カ製法ニ改良ヲ加ヘテ蠟蠟以上ニ價值ヲ有セシムルコト必ラスシモ不可能ナラサルヘシ漆樹ハ植栽後四、五年目ニ至レハ結實ヲ始メ尙年ヲ經ルニ從ヒ收穫ヲ増加ス其結實ノ數量ハ其土地及培養方法ノ如何ニ依リ一定セサルモ熊本縣矢部地方ニ於ケル一本ノ結實量ヲ掲クレハ五年目ニ五合、六年目ニ一升、七年目ニ一升五合、八年目ニ二升五合、九年目ニ三升三合、十年目ニ四升二合、十一年目ニ五升五合、二十年目ニ約一斗一升ニシテ會津地方ニテハ百年生一本ヨリ年々八十石餘ノ結實アリシト云フ又製蠟ノ副産物トシテ生スル核子ヲ馬糧ニ供スルコト古來盛ンニ行ハレタリ南部馬ノ優秀ナルハ該地方ニ於テ之ヲ馬糧ニ用ウルカ爲メナリト稱セラル又製蠟ノ際生スル皮ノ搾粕ハ肥料ニ好適ス漆ノ種子ハ隔年ニ豐凶アリ古來ノ實驗ニ徴スルニ五、六月ノ候風多キ年ハ結實少ク雨多キ年ハ概シテ結實多シ又旱魃ノ翌年ハ殊ニ結實多キモノナリ漆材ノ利用概況——此材ハ邊材白ク心材黃色ヲ呈シ材質輕軟ナルモ彈力ニ富ミ保存期長シ材色頗ル美麗ナルヲ以テ寄木、木象嵌ニ利用シ又輕軟ニシテ水ヲ吸フコト少キ性ヲ利用シテ浮子トナス浮子ハ現

今漁業用ノ需要大ニ増加セリ由來網ノ浮子(俗ニ「アバキ」ト云フ)ハ從來主トシテ桐材ヲ用キタルモ桐材ハ吸水量多クシテ浮力ノ耐久性ニ乏シキ點アリ蓋シ大網具中旋網類、流網類及引網類等ノ如キ運用漁具ニアリテハ時々使用シ其都度乾燥セシムルモノニ於テハ桐、杉、檜材ノ如キ例トヒ吸水量ハ多クトモ放水シ易キモノヲ用ウルヲ利アリトスヘク之ニ反シ刺網類及建網類等常設ノ漁具ニ用ウルモノハ水中ニ長ク浸在セシムルノ要アルモノナレハ桐、杉ノ如キ吸水量多キモノヲ用ウルヨリハ寧ろ漆、楮材等ノ如キ吸水量少キモノヲ用キサルヘカラス是等ノ利用法其當ヲ得サレハ漁獲ニ至大ノ關係アリ今其一例ヲ舉クレハ運用漁具ニテモ桐、杉ノ如キハ取扱ヒニ不便ヲ來タス場合アリ刺網ノ如キ浮力少キモノヲ用ウルハ網ハ斜ニ伏シ漁獲ナキニ至ル浮子ノ形狀ハ勿論之ヲ使用スル網ノ種類ニ依リ一様ナラス而シテ現今之ニ使用スル高ハ蓋シ莫大ノ額ニ達スヘキモノト推定セラル又漆材ハ膠著可ニシテ彈力アルニ依リ側木トナシ其他裝飾材及建築材トシテ貴重セラル根部ハ畸形ノモノ多キヲ以テ洋傘ノ手元ニ使用シ又此材ハ坑木トシテ使用スルトキハ腐朽ニ耐ヘ保存期長シ薪材トシテハ燃燒シ易ク火力強シ唯油焰ヲ發スルノ缺點アリ其他此材ハ箱類、建具、味噌樽等ニ用ヒラル又此樹ノ嫩芽ハ食用ニ供セラルルコトハ人ノ知ル所ナリ

### 第三節 漆液精製法ノ概要

生漆ヲ本鉢ニ入レ之ヲ斜メニナシテ文火ニ當テ或ハ日光ノ直射ニ依リ温メツツ攪拌器ニテ絶エス攪拌シツツ水分ヲ蒸發セシルモノトス生漆一貫目ヨリ邊搔ハ約七百五十匁裏目搔ハ五百匁位ノ黒目漆ヲ得之ニ生漆一貫目ニ對シ二百匁ノ割合ニ在油ヲ混シ布袋ニ入レ漉シテ精製ヲ終ル而シテ生漆ノ黒目屋(漆商)ニ至ルマテニ漆液搔取人夫、仲買人及生漆商(問屋)ノ手ヲ經ルヲ以テ其間多少ノ混合物ヲ爲スハ免レサル所トス而シテ黒目液製造ノ際ニ於ケル混和物ハ其用途ニ依リ一様ナラサルモ其品名ハ概ネ左ノ如シ

在油、種油、桐油、乾燥劑、蜂蜜、飴、氷砂糖、五倍子、洋チヤン、コーバル等

蓋シ多少ノ混合物ハ製造上已ムヲ得サル所ナルモ最下等品ニアリテハ混合物其九割ヲ占ムルコトアリ

### (附錄) 漆まけノ豫防手當法

初業者ニアリテハ漆酸ノ刺撃ヲ受ケ一時發熱スルコトナシトセス斯ル虞レアルモノニ對シテハ苗圃ノ除草或ハ苗木ノ取扱等ニ際シ股引、手貫等ヲ着用シ兩手ニハ最初ヨリ豆ノ油、在油ヲ少々塗り附ケ置キ業務ニ著手スヘシ休息ノ時或ハ業ヲ終リタル時ハ必ス在油ヲ濕シ置キタル木綿層又ハ古綿ニテ皮膚着類等ニ附著セル漆液ハ總テ之ヲ拭ヒ取ルヘシ又ハ降雨、朝露ノ去ラサル間ハ除草ヲ避ケ或ハ漆樹ノ枝葉等ニ觸レサル様注意スヘシ若シ皮膚ニ漆瘡ヲ生シタルトキハ左ノ方法(古來ノ慣行)ニ依リ應急

ノ手當ヲ加フヘシ(多少ノ效果アルモノトス)

- 一、ソーダ湯(六十度位ノモノ)ニテ局部ノ洗滌ヲナスヘシ
- 二、蟹ト杉葉(若キモノ)トヲ能ク煎シタル湯ニテ入浴スルカ或ハ局部ノ洗滌ヲナスヘシ
- 三、少許ノ漆液附着シタルトキハ前記ノ如ク直チニ在ノ油、樟腦油等ニテ拭ヒ去リ兩手ヲソーダ湯(洗濯用品ニテモ可ナリ)ニテ洗滌シ置クヘシ

### 第四節 最近ニ於ケル漆液價額騰落ト漆液輸入數量

漆液一貫目ノ價額大正五年七月ニハ本邦産一等品十一圓二等品九圓五十錢三等品八圓三十錢支那産一等品七圓五十錢二等品六圓七十錢三等品五圓三十錢ナリシカ其後漸次騰貴シテ大正九年五月頃諸物價ノ最高潮ニ達シタル時ハ本邦産一等品四十五圓支那産一等品三十圓前後ヲ唱ヘ實ニ四倍強ノ高値ヲ示セリ其後漸次低落シテ同年九月頃ニハ約三割方低下シ十一月頃ハ更ニ一割見當下落シ同年五月頃ノ相場ニ比スレハ約半額トナレリ併シ十年六月頃ヨリ漸次引戻シ同年十一月頃ニハ本邦産一等品三十五圓見當支那産一等品二十二圓見當トナレリ此昂上セル相場モ十一年三月頃ヲ終リトシ稍々低下シ大正十一年七月ニハ本邦産一等品三十圓二等品二十八圓三等品二十圓支那産一等品十八圓二等品十五圓三等品八圓前後ヲ示セリ紋上本品ノ相場ハ大體ニ一般ノ景氣ト相併行シ高下シツツアルモノノ如シ而

シテ外國貿易年表ニ依リ最近六箇年間ニ於ケル漆液輸入數量ヲ掲クレハ

年次	數量	價額
大正五年	二二〇、六八二	七六六、〇二五
同 六年	二〇〇、五〇五	九三三、四〇一
同 七年	二四九、六六二	一、三六一、九五五
同 八年	二九四、五八八	二、五四九、六八六
同 九年	二二六、六〇八	三、〇六八、八五三
同 十年	二六七、三一九	二、一六五、三二六

即チ大正八年ノ二十九萬餘貫ヲ最高トシ翌九年ニハ前年ノ三割弱ヲ減シタルモ大正六年ニ比スレハ同年ノ一割強ヲ更ニ翌十年ニハ同年ノ三割強ヲ増加セリ

### 第五節 漆樹栽培ノ收支

福島縣耶麻郡地方ニ於ケル實例

未立木地開墾漆樹栽培收支計算(一町步)  
(大正八年喜多方小林區署松尾半平調査)

利率年五分一町步三千本植補植一回(約二割)  
 成育本數二千四百本(雄木一千二百本)ノ割 伐期二十箇年

支 出

費目	伐期計算	當該年度支出		備考
		初年	每年	
地所借入代	二九七、四三〇		六、〇〇〇	
地拵代	七九、六〇〇	三〇、〇〇〇		前作ヲナサシムルヲ以テ地拵費ヲ要セス 苗木代運搬、假植共一千本當十圓
苗木代	一六四、五〇〇	六二、〇〇〇		植穴人夫一人一日六十箇所植付人夫一人一日ニ付二百五十本一人賃平均壹圓 地拵費ニ同シ
植付代				苗木代六圓植付一人一日五十本人夫賃一圓
手入費	四三、三二〇	一八、〇〇〇		一人一日二十本知賃雌木一、二〇〇本ニ對スル分
補植費	七五〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇		食料、採取人夫賃
種實採取費	一、三二〇、〇〇〇	一、三二〇、〇〇〇		倒木起、害蟲驅除、其他保護費
種實工費	一〇〇、〇〇〇			
雜費	二、七五四、八五〇			
計				

種目	伐期計算	當該年度收入		備考
		十一年目	十一年目	
樹實賣却代	一、一二五、〇〇〇	九〇、〇〇〇		年ニ依リ豐凶アルモ平均一年一本一升一千二百本ノ分十二石一升七錢五厘ノ割
漆液賣拂代	二、四〇〇、〇〇〇			一本平均五十匁二千四百本百二十貫(一貫目二十圓)
原木賣拂代	二九〇、〇〇〇			材積五百石、用材二百石薪材三百石(一石三十錢)
計	三、八一五、〇〇〇			

差引一千六十圓餘

純益金

本作業ハ森林ノ伐採跡地ヲ開墾シテ五箇年間野菜、蒟蒻、大豆、小豆ヲ前作セルモノニシテ十一年目ヨリ種實ヲ採取シ二十年目ニ至リ採液シ原木ハ用材薪材トシテ賣拂ヒ跡地ハ萌芽ニ依リ更新スルモノトス爾後ハ第一回ト同シク十一年目ヨリ種實ヲ採取シ二十年目ニ採液スルモノトス第二回目以後ニハ多少ノ手入費ヲ要スルモ地拵、苗木代植付費ヲ要セサルニ依リ第一回目ヨリ支出僅少ニシテ足ル其他倒木ノ起シ、害蟲ノ驅除等經費ヲ要スルモ此分ハ雜費ヨリ支辨スルモノトス

總括

今漆樹ノ増殖竝漆液採取ニ關シ最モ緊切ナリト認ムルニ、三ノ要項ヲ茲ニ再說スレハ左ノ如シ

- 一、耕宅地ノ周圍、堤塘地、河畔、燒畑、切替畑、山脚地等其他ノ空地ニ農家ノ副業トシテ漆樹ノ植栽ヲ獎勵スルコト
- 二、從來ノ如ク外來ノ漆採取者ニ立木ノ儘賣渡スコトヲ避ケ立木所有者自ラ漆液ノ採取ヲナスカ然ラサレハ土著人ノ手ヲ以テ採取ヲナサシムルコト
- 三、從來ニ於ケル漆液採取ノ期間(半夏ヨリ晩秋小雪ニ至ル百八十日間)ヲ短縮シテ漆液ノ滲出量最モ多キ七月中旬ヨリ十月上旬頃マテトナシ極力生産費ヲ節減スヘシ

- 四、漆樹栽培者相謀リテ生産及販賣ノ産業組合ヲ組織スルコト
- 五、漆液生産者タル農家ト漆工業者トハ互ニ聯絡ヲ採リ斯業ノ改善發達ヲ講スルコト
- 六、府縣山林會又ハ市町村其他組合ノ事業トシテ漆樹存在地ノ子弟ニ漆液採取方法ヲ傳習セシムルコト
- 七、漆樹ノ増殖並漆液採取ニ關スル講習講話ヲ行フコト

以上

(參考)

- 一、朝鮮ニ於ケル漆樹分布ノ概況(本篇ハ主トシテ大正八年七月東京漆商同業組  
合朝鮮特派員多田清治郎氏ノ報告ヨリ摘録ス)
  - 一、江原道原州郡ハ古來漆樹ノ栽培セラレタルモノ多ク往々周圍二尺以上ニ達セルモノアリ近時郡廳ニ於テモ之カ増殖獎勵ニ努メ大正七年度郡内ニ植栽セルモノ百五十萬本、同八年ノ播種量一石五斗ニ上ル又郡ニ於テハ鮮人ニ内地式漆液採取法ノ傳習ヲ行ヘリ又民間側ニ於テハ山口縣人金子恭一氏カ同郡内ニ八百餘町歩ノ漆樹林造成ヲ企テタリ
  - 二、平安北道秦川郡廳ニ於テモ亦漆樹ノ増殖ヲ獎勵シ大阪市漆商齋藤嘉兵衛氏等之カ造林ニ努メ又一

- 面ニハ同郡東面ニ於テ齋藤漆液採取所ヲ設置セリ
  - 三、忠清南道公州地方亦漆樹ノ栽培セラレタルモノ尠カラス同地方ニハ福井縣今立郡上池田村飯田氏ノ經營ニ係ル約三百町歩ノ漆樹新植地アリ
  - 四、忠清北道沃川郡廳亦漆樹ノ増殖ニ努メツツアリ
  - 五、咸鏡南道新興郡方面及慶尙南道居昌郡地方亦漆樹ノ生立セルモノ尠カラス
- 以上何レモ山麓、溪間耕宅地ノ周圍等ニ栽培セラレ遠望スレハ畑地及家屋ノ周圍ニ環狀ヲナシ或ハ山麓ニ曲線ヲ畫ケル漆樹林ヲ認メ得ヘシ然レトモ漆液ノ採取法ハ朝鮮式採液法ヲ用キルノ慣習半平トシテ拔クヘカラサルモノアリ爲ニ樹齡三、四年ニシテ根元ヨリ伐採セラレ焙リテ採液スルヲ常トシ其產漆量ハ著シク増進セサルナリ今各道ニ於ケル採漆シ得ル樹數(朝鮮總督府大正四年六月ノ調査)ヲ掲クレハ京畿道
- 一〇、五五六本、忠清北道一八、九四〇本、忠清南道三九、一三〇本、全羅北道二六、二〇九本、全羅南道五、一二八本、慶尙北道二四、八七三本、慶尙南道六二、四八六本、黃海道一一、八三三本、平安南道六、八九〇本、平安北道四〇、二二〇本、江原道六、八九七本、咸鏡南道二一、七五四本計二七五、九一六本尙未タ採漆シ得サル幼樹五三七、六六二本總計八一三、五七八本ニ上ル

一、支那ニ於ケル漆液生産ノ概況(大正十二年一月石原  
技師視察復命ノ一節)

一、產地 元來支那ニ於ケル漆液生産區域ハ湖北、湖南、四川、貴州及陝西ノ五省ニ跨ル雲貴高臺地ノ東北部ヨリ之ニ連ナル楚西山地一帶ノ高原及福建春梁山脈ヲ主トス而シテ福建春梁山脈ニ産スル漆液ハ主トシテ有名ナル福建省福州漆器ノ原料トシテ使用セラレ又浙江省嚴州方面ヨリ上海ニ集ルモノハ品質良好ナリト稱セラルルモ其ノ産額寡少ニシテ移、輸出セララルルモノ甚タ少シ只獨リ楚面山地ニ産スルモノハ産額最モ豊富ニシテ其ノ集散地タル漢口カ支那漆ノ代表者トシテ普ク世ニ知ラルル所以ナリ

二、生産ノ狀況及産額 本邦ニ輸入セララルル漆液ノ產地ハ北ハ漢水ヲ以テ界シ北緯二十七度乃至三十二度東經百九度ヲ中心トスル地帯ニシテ其ノ主要ナル集散地ヲ擧クレハ

- 湖北省産 建始及施南
- 湖南及貴州兩省産 銅仁及常德
- 四川省産 酉陽及秀山
- 陝西省産 興安

ニシテ實際商取引上ノ集散地ハ宜昌、漢口及老河口ノ三箇所トス

楚西山地ニ於ケル漆液ノ生産額ニ付テハ何等準據スヘキ統計的調査ナキ爲メ當業者ノ推測亦區々ニシテ一定セス一説ニ依レハ楚西山地ノ漆液年産額ハ大約七萬五千擔此ノ價格四百萬兩ニ達スヘシト

稱スル者アルモ多年漢口ニ於テ漆液ノ貿易業ニ從事スル老舗ノ調査ハ比較的信頼スルニ足ルヘキモノト思料セララルカ故ニ之ヲ產地別ニ分類シテ掲クレハ

- 一、湖北省建始、施南方面 一五、〇〇〇擔
- 一、湖南省銅仁、常德方面 一一、〇〇〇擔
- 一、四川省秀山方面 五、〇〇〇擔
- 一、陝西省興安方面 七、〇〇〇擔
- 一、貴州省重慶方面 一、〇〇〇擔

計 三九、〇〇〇擔

ニシテ大體年産額四萬擔内外ト看做サハ大差ナカルヘシ尙ホ支那ニ於ケル漆液ノ採取法ハ後述スルカ如ク本邦ノ方法ト其趣ヲ異ニシ經濟的ナルヲ以テ漆液ノ採取年限長ク加フルニ阿片栽培禁止以來山地農民ハ油桐樹及漆樹ノ栽培ヲ以テ之レニ換フルノ傾向ヲ生シ漆液ノ生産力ハ近年遞増ノ傾アリ之ニ加フルニ楚西山地ハ栽培漆樹以外無數ノ野生漆アルヲ以テ近キ將來ニ於テハ其産額ハ繼續的ニ増加スルモノト看做シテ大ナル誤ナカルヘシ

二、漆樹及其ノ栽培法 漆樹、楚西山地ニ存スル漆樹ハ其ノ學名 *Ehusyovibena*. D.C, ナリ本樹ハ元來支那固有ノ樹種ニシテ本邦ニ之ヲ産スルハ往時之ヲ移植セラレタルニ依ルト稱セラル事實我カ國

ニ於テ野生漆ノ存在セサルヨリ見レハ彼我同一ノ原産樹種タルヘシ而シテ支那漆ハ湖北省ノ西部及四川省東部ノ山地ニ最モ多ク産シ野生樹ト栽培樹トアリテ海拔三千尺乃至七千尺ノ間ニ生育スルモ最モ適當ナルハ四、五千尺ノ高處ニシテ畑地ノ畦畔最モ良好ナル發育ヲ遂クト云フ 當業者ハ漆樹ヲ大樹ト小樹トニ區分ス其ノ大樹ト稱スルハ概ネ野生ニシテ樹皮荒ク漆液ハ含水量多ク乾燥性ニ富ム之ニ反シ小樹ハ山麓ニ栽培セルモノニシテ木理密ニ漆液濃厚乾燥運ク品質ハ大樹ヨリ良好ナリト稱スルモノアルモ果シテ種類ヲ異ニスルヤ否ヤハ詳ナラス

漆樹栽培法 湖北省、隕陽府、宜昌府、四川省、燕州府、綏定府及貴州等ノ方面ハ野生樹多ク栽培數ヲ増加樹少シト雖モ湖北省、施南府及四川省、酉陽府下ニ於テハ近來漆液ノ需要増加シタル結果採液ノ回シタル爲漸次老樹ノ枯死ヲ來タスニ至リタレハ栽培スル者漸ク増加スルニ至リタリ而シテ本方面ノ栽培法ハ地方ニ依リ多少異同アルモ大抵陰曆九月漆樹ノ根ヲ適當ニ切り取り日蔭ニシテ濕潤ナル地ニ之ヲ挿シ置キ其發芽スルモノヲ翌年二、三月ニ至リ日當能キ麓ヲ選ヒ五、六尺置キニ移植シ之ニ一箇年位經過シタル人糞又ハ肥土ヲ加ヘ時々樹間ヲ耕鋤シ雜草木ヲ去リ樹齡六、七年目ヨリ採液ヲ始ム

四、漆液採取法 漆樹ノ栽培最モ盛ナル湖北省、施南府、四川省、酉陽府地方ニ於テハ植付後六、七年ヨリ採液ヲ始メ十年前後ヲ以テ良液採取期トナシ十五、六年前後ニ至リテ伐採ス野生樹ハ栽培樹ノ如ク生長速ナラス立地ノ關係ニ依リ遲速アリテ採液ノ時期ハ一定シ難シト雖モ大抵十年生位ヨリ採液

ヲ始メ十二、三年生ヲ採集ノ最良期トスルモ所有者ノ貧富及需要ノ多寡等ニ依リ或ハ五、六十年ヨリ百年ニ至ル老樹ニ對シ採液スルモノアリテ一様ナラス尙栽培樹ハ一、三年目毎ニ採液スルカ故ニ樹幹ノ生育ヲ害セス多量ノ漆液ヲ得ヘキモノナレトモ最近毎年採液スルモノアルニ至リタルニ依リ漆樹ヲ害スルコト尠カラス漆液ノ採取季節ハ栽培樹ニアリテハ陰曆四月末ヨリナシ野生樹ハ一箇月遲クシ五月ヨリ始メ共ニ中秋ニ至リ降霜前ヲ限度トス就中七、八月ヲ以テ最良期トセリ斯ノ如ク支那漆ノ採取ハ普通入梅ニ始メ八朔ニ至リ之ヲ止ム所以ノモノハ朔以降ニ採取セシモノハ漆ノ乾燥性遲ク品質著シク劣ル爲ナリト云フ漆液ヲ採取スルニハ地上ヨリ三、四尺ノ所ヨリ始メ先ツ樹幹ノ上皮ヲ支那特有ノ剃刀ニ似テ大ナル庖刀ニテ右ヨリ斜ニ一線又ハ電光狀 $\setminus$ ノ $\setminus$ ノ狀ニ切口ヲ造リ漆液ヲ滴溜セシムルニ足ルヘキ木ノ葉又ハ薄キ貝殼ヲ切口ノ下端ニ插ミ同一ノ方法ヲ以テ上方二尺位ツツノ距離ヲ置キ以テ大枝ニ及フ其切口ハ大樹一本ニ付二十箇所、小樹十箇所ニ至ル而シテ之カ切口ハ晚景ニ作り翌朝日出前ニ漆液ノ採取ヲナスヲ常トシ採取者ハ廻リ一尺許深サ一尺位ノ竹筒ヲ胸ニ掛ケ貝又ハ木葉ノ内ニ收容シタル一夜間ノ漆液ヲ竹筒ニ移シ順次上方ニ及フ其竹筒中ノ漆液ハ約三十斤入りノ丸桶ニ入レ堅ク蓋ヲナス斯クシテ六、七回ヲ經テ前切口ノ接著セルヲ再ヒ切り開キ貝又ハ木葉ヲ插ミ翌朝採取スルコト前法ノ如クナシ後順次六、七回ヲ經テ一回ツツ採取ス同一切口ヨリ通計八回ノ採液ヲナス

普通一地方ノ採取季間ハ三箇月乃至四箇月間ヲ要シ一樹ノ漆液得量一斤半乃至二斤ニシテ一人一日ノ採液量ハ約二斤トス而シテ第一回、第二回ノ採取漆液ハ水分多ク品質下等ニ第三、四、五回ノ漆液ハ最良好ニ第六、七、八回目ノ漆液ハ中等質ナルヲ以テ三等ニ區分シ各別ノ桶内ニ貯フ

五、生漆ノ種類 前述セルカ如ク當業者ハ漆樹ヲ大樹ト小樹ニ區分スルカ故ニ生漆ニモ大樹漆ト小樹漆トニ分テ又其採取ノ回数ニ依リ上、中、下ノ三等ニ區分セリト雖モ原產地ニアリテハ之ニ別段ノ名目ヲ附スルコトナク多クハ產地ノ地名ヲ以テ概稱ス今楚西漆液ヲ產地ニ依リ分類スレハ次ノ如シ

(一) 建始産 乾燥性ニ富ミ光澤能ク伸展力大ニシテ透キ通ル性質ヲ有ス支那漆中品位最良好ト稱セラル

(二) 施南産(毛琪) 乾燥性前者ニ劣ルモ伸展力ニ富ミ朱漆ノ製造ニ適ス

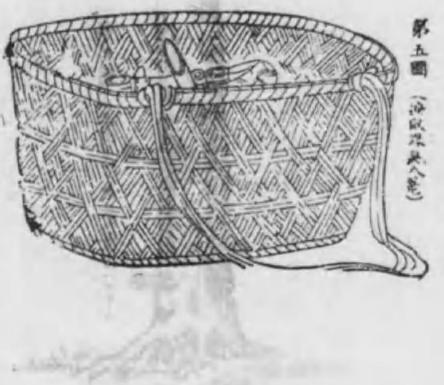
(三) 龍潭 乾燥性悪シキモ粘着力ニ富ミ黒漆ノ製造ニ適ス

(四) 銅仁 龍潭ノ二等品ニ該當ス

(五) 萬足(酉陽方面産) 粘着力弱キモ精少シ

(六) 大木(興安方面産) 水分非常ニ多ク乾燥性最モ大ナリ

前記ノ各種類中本邦ニ最モ歡迎セラルルハ第一及第二ニシテ産額ノ約九割ハ本邦ニ輸入セラル



第五圖 (漆液貯入器)



第一圖 (漆刷)

第二圖 (皮切小刀)



第三圖 (漆桶)



第四圖 (漆刷)



第六圖 (漆樹)



### 舊津輕藩漆仕立獎勵ノ概要

津輕藩ニ於ケル漆樹獎勵方法ハ徹頭徹尾漆汁及漆實ノ專賣ノ方法ニ依リテ行ハレタルカ如シ蓋シ漆樹ハ畑作等ノ如ク目前ノ利益ヲ得ルコト難ク其效果ヲ十數年後二期スルモノナルヲ以テ津輕地方ノ如キ漆樹ニ適スル地方ニアリテハ到底尋常一様ノ方法ニ依リテ之カ植付獎勵ノ實ヲ擧グルコト能ハサリシニ由ルヘシ

津輕藩カ漆樹ノ獎勵ヲ爲シタルハ藩ノ收入ヲ增加スルノ目的ニ出ツルコト勿論ナルヘシ雖モ其之ヲ獎勵スル重要ノ目的ハ亦農家副業ノ獎勵ニアリタルコト疑ナキ所ナリ嘉永五年四月ノ仰付ニ

- 一、漆仕立ノ義往古ヨリ仰出候義ハ御領分田畑ノ補ニ可相成產業無之ニ付產物御閉ノ義毎度被仰付候ヘトモ兎角耕作ニ懸合ヒ其業雖盡處ヨリ盛産ニ相成候ニ付百姓共農隙ヲ以テ開産ニ可相成義段々評議被仰付候處漆木ノ義ハ農事ノ隙ニテ仕立並手入方モ行キ渡リ且諸木ニ勝レ一旦植仕立老木ニ及ヒ搔枯等ニテ伐返シ候ヘハ却テ根生多ク出テ右ニ手入加ヘ候ヘハ不朽ノ木品ニテ搔取ノ節ニ至リ分外ノ入金ニ相成リ御國益ニ相成ル故古來ヨリ數度被仰出候ヘ共下々ニ於テ眼前ノ利分ニ相走リ被仰付ノ事勢ニ隨ヒ名目而已ニ仕立置キ後年ノ御備等聊カ相辨不申放何分盛産ニ至リ兼候全ク田畑一通ニテ凶年等ノ補ニ及兼可申尤米錢ノ御貯モ兼々被仰付候得共猶又今度漆仕立増被仰出凶年ノ補爲云々(中略)年中繰ニ三、四日宛ノ日ヲ盡候ヘハ十分植仕立相成候ヘハ村々一和致シ村仕立ハ勿論豪家重立分ノ者トモハ別テ厚ク相心得自然凶年等ノ節ハ下々救方一方ノ目當ニ相成候様幾重ニモ出精仕立増致候様被仰付候トアリ其他此種ノ布達妙カラス以テ其一般ヲ知ルニ足ルヘシ本藩ニ於ケル漆樹獎勵ハ其ノ源ヲ遠ク延享(今ヨリ百六十八年以前)以前ニ發スト雖モ專賣制度ノ基礎ヲ明カニシタル最初ノ布告ハ延享四年二月十日ノ御觸出ナリ即
- 一、漆木植付ノ義銘々居屋敷ノ内ハ云フニ不及其外荒地資所空地並海道並木ヘモ可然場所見立申立候ハハ差障無之處ハ願之通可申付候
- 一、右漆植付候テ生立ノ漆百本以上木尺四、五寸ニ成候節其旨申立候様彌相違於無之ハ漆成立ノ爲メ御米錢ノ内木數次第差積御手

當可被下置候

一、漆成立候ハハ木數多少ニ不限水漆並實トモニ半分ハ只今マテノ内相納候様殘リ半分ハ水漆並實共ニ植付候者ハ被下置候其分トモニ御買上可申付候間出精植付候様

一、漆畑年實地ノ分ハ右場所相應ニ漆植付候者ハ年實ハ御免可申付候

右ノ通向後申付候木數勝レテ多ク植付成立候様仕立候モノハ御沙汰ノ上褒美可下置候間隨分出精植付候様尤相應ノ場所見立候モノ有之候ハ早速申出候様御觸出

右ニ依レハ當時ニ於ケル漆樹植付ノ制度ハ大凡左ノ數項ニ歸スヘシ

一、漆ノ植付ハ官民有何レノ土地ニテモ漆ノ成立ニ適スル場所ヲ出願スルニ於テハ田畑其他ニ支障ナキ限り之ヲ許可スヘキコト

二、漆ヲ植付タルモノニ植栽獎勵ノ爲相當ノ手當ヲ給シ其代價トシテ收得シタル水漆及實漆ノ半額ヲ藩ニ納メシムルコト

三、殘半額ノ民收部分ハ買上ヲ爲スコト

四、年實地ニ漆ヲ植付ケタル場合ハ其年實ヲ免スルコト

五、植付木數著シク多大ナルモノニハ褒價ヲ與フルコト

即植栽ニ手當ヲ給シ收益ヲ分收スルヲ以テ骨子トシタリ然レトモ此制度ハ藩ノ終局ノ目的ニ非サリシコト明カニシテ越ヘテ明和八年四月ノ仰付申ニ漆木是迄匏入並細木共不殘被下置候村中ニテ仕立ノ分ハ其村高無ニ被下置候自分ニテ仕立候分ハ其者ニ被下置候匏入漆木一本ニ付一分宛錢納被仰付候ト規定シ先ツ五官五民ノ分收ヲ廢シ漆木一本ニ付一分ノ納稅ヲ命シタルヲ見ルヘシ漆仕立ニ手當ヲ給スルノ制度ヲ廢止スルコトニ付テハ何等ノ明文ナキモ此時以後ニ於ケル舊記ニ此事記載セラレタルモノ一モナキヲ以テ是亦同時ニ廢止シタルモノト認メサルヲ得ス而シテ此一本ニ付一分宛錢納ノ制モ僅カニ四箇月ニシテ改正セラレ同年八月ヨリ二官八民ノ分收部合ヲ定メ再ヒ分收制ヲ採用シタリ右八月仰出ノ要點ハ差ノ如シ

一、漆木之儀平均一本ニ付一分宛御役錢先達而被仰付候得共木ノ大小ニ依リ御役上納平均難相成儀ニ付左ノ通り被仰付候

一、水漆並實共準々出高ノ内ニ歩御役ニ上納被仰付候ハ歩通り御買上御定値段ニテ代錢ニ下置候間此上出精植付候様申付候

一、屋敷ノ内並抱畑ノ内ニ相立候漆ノ分ハ畑物成上納ノ上ノ儀ニ付漆木御役御免被仰付候云々

右ニ依レハ延享四年ノ漆畑民地ノ年實ヲ免スルノ制ハ已ニ廢止セラレタルモノト見ルヘク結局民地植付ノモノハ此事アルハ獨リ官地ニ之ヲ植付ケタル場合ニ限ルニ至レリ而シテ斯ノ如キ植立地ニハ證文ヲ下付シテ其權利ヲ子孫ニ傳フルコトヲ許シタルコト文化三年御觸出中「銘々自然仕立方盛木ノ處ニテ御證文下置永ク子孫ニ相傳ヘ云々」ト規定セルニ依リ明カナリ尙ホ文化ノ頃ヨリハ往古ニ於ケル漆守ノ制度ヲ復活シ高三十石諸郷役御免ノ上漆木取扱被仰付各一人毎ニ三萬本ノ植栽義務ヲ負擔セシメ藩内漆三百萬本ヲ得ルノ方針ヲ定メ嘉永五年更ニ之ヲ更メテ九百萬本ヲ豫定シタリ然リ而シテ漆植立ノ事タル其事業ノ進歩思ハシカラサルコト前述シタルカ如クナルヲ以テ此頃ヨリ藩ハ漆苗ノ無代下付ヲ始メタリ茲ニ至リテ本藩ニ於ケル漆仕立獎勵ノ制度ハ全ク完成スルニ至リタリ茲ニ再ヒ其要領ヲ掲ケテ通覽ニ便スヘシ

一、漆苗ヲ無代ニテ下付スルコト

二、官地ニ植栽シタルモノハ漆汁及漆實ノ二歩ヲ官納シ八歩ヲ民收トスルコト

三、漆汁及漆實ハ之ヲ藩ニ買上クルコト從テ私ニ之ヲ賣買スルニ於テハ仕立場所ハ之ヲ取上ルモノトス

斯ノ如クシテ制度ノ確立シタル後ニ於テモ漆樹植栽獎勵ノ事業ハ難事申ノ難中ニシテ藩ハ之ヲ獎勵スルニ殆ント寧日ナキノ狀況ナリシナリ (完)

178  
28

終